



西原町 復帰50年の歩み



 西原町復帰50年の歩み



「西原町役場」の表札を掲げる宮平吉太郎町長(右)と平安恒政助役(左)。1979年(昭和54)4月2日撮影

日本軍・着弾地点観測所（陣地）からの眺望（現・西原町上原高台公園）



（撮影：1961年8月／資料提供：屋良勝彦）

西原飛行場／1944年5月、日本軍により本島東海岸、現在の西原町小那覇に建設が開始されていた。しかし、同年10月10日、沖縄本島を襲った大空襲により建設途中で放棄される。当時は日本軍により「沖縄東飛行場」と呼ばれ、通称は「西原飛行場」、また、立地していた地域の名を取り「小那覇飛行場」とも呼ばれていた。

本町は、沖縄本島中部南端の東海岸側に位置し、西は浦添市・那覇市と、北は中城村・宜野湾市と、南は南風原町・与那原町の六市町村と接し、東は中城湾に面する。総面積は15.90km²、東西約5.1km、南北約5.8kmの楕円状を呈している。

西原の名称は、首里御城の北(ニシ)にある地域という意で、南の南風原に対する名称である。古くは真和志間切や南風原間切とともに"首里三平等(しゅりみひら)"と

呼ばれた、王府の直轄領であった。

王府時代の西原間切の行政区は、那覇市の泊、天久、安謝などの西海岸地区から、うるま市勝連半島沖にある津堅島までと広大な範囲であった。西原間切は1908年（明治41）の沖縄県及島嶼町村制の施行によって幸地、棚原、翁長、呉屋、津花波、小橋川、内間、掛保久、嘉手苅、小那覇、与那城、我謝、安室、桃原、小波津、石嶺、末吉の17ヶ村をもって西原村が成立。「西

原村」となり1920年（大正9）の石嶺、末吉の首里区編入によって、ほぼ現在の領域となった。その後1929年（昭和4）に棚原より森川、我謝より兼久、安室・桃原より池田を1932年（昭和7）森川より徳佐田・千原・上原がそれぞれ分離・独立してひとつの字を形成するようになり、行政区は24字へと増加した。

戦前まで集落を形成していた掛保久の屋取部落、崎原、小那覇の屋取部落、仲伊保・伊保之浜のような戦

後、米軍による軍用地接収により移転を余儀なくされた特殊な部落もあり、それらの部落出身者のほとんどが、我謝（通称＝試験場地）、与那城（通称＝新部落）、兼久を中心に住所を移している。

西原は土地が肥沃で、王府時代には稲作地帯として知られていたが、明治21年に甘蔗作の制限が解除されたことで田んぼを畑に変えるタードシー(田倒し)が盛んに行われ、稲作からさとうきび作りへと大きく転換した。

1906(明治39)年、政府が西原の我謝に糖業改良事務局を設置したことにより、沖縄の糖業振興に寄与し、糖業が西原の主要産業へと変わって行った。

本土復帰前後、各種企業の進出や琉球大学の移転、都市のドーナツ化現象に伴って那覇市に地理的に近いこともあってベッドタウンとして新興住宅、団地の建設などが進み人口が急増し現在の32の行政区へ発展した。小那覇の臨海地域一帯は商工業の発展・振興を図るため

に工業専用地(工業団地)が整備され、就業構造も大きく変化し、ますます都市化の様相を呈しつつある。

人口は35,574人(令和3年12月末)である。

西原町の概要



西原町 復帰50年の歩み

西原町復帰50周年記念事業 西原町復帰50年の歩み 目次

発刊のごあいさつ



西原町本土復帰50周年記念事業の写真集「西原町復帰50年の歩み」の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

2022年(令和4年)は、沖縄が日本に復帰して50年の節目の年であります。

1945年の終戦の日から7年後の1952年にサンフランシスコ講和条約が発効され、日本は主権を回復しました。しかしながら、沖縄は1945年から1972年まで27年という長きに亘って米軍統治下に置かれ、1972年5月15日ようやく日本への復帰を果たしております。

力強く戦後復興の歩みを進めつつも、米軍統治時代の様々な苦難の歴史を経て、私たちの先人は50年前に復帰を成し遂げました。さらに、“OKINAWA”から“沖縄”へ移り変わる中で発展を続け、今に生きる私たちはその恩恵を享受しております。

一方で、現在も沖縄県では様々な課題を抱え、それを解決していくための多くの努力が求められております。

この度は本土復帰50年の節目を迎えるにあたり、失われつつある復帰前後から現在までの出来事、事件や行政・文化等の変遷など、これまで歩んできた歴史を冊子に残し、多くの町民の皆様と振り返るとともに、次代を担う若い世代に伝える機会になればと考えております。

また、今回の写真集を通して町の変化や発展を感じることで、これまで西原町が歩んできた歴史、その中にあった先人の苦労や努力を感じる機会とし、郷土愛の醸成、個性豊かな文化の形成を図りたいと考えております。そして西原町の未来について、町民の皆様と一緒に考えていければと思います。

最後に本写真集の編纂にあたり、多くの町民や企業の皆様から資料提供等のご協力を頂き、完成の運びとなりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

令和5年3月吉日
西原町長 崎原 盛秀

日本軍・着弾地点観測所(陣地)からの眺望 ー見開きー

2 発刊のごあいさつ

4 復帰までの経緯

5 歴史年表

6 西原町の人口の推移と主な出来事

9	年表と写真で 振り返る西原町	10	1940年代	14	1950年代	19	1960年代
		22	1970年代	26	1980年代	31	1990年代
		35	2000年代	40	2010-22年		

49 各行政区の経緯

50 村落(行政区)の変遷

52	幸地	54	幸地ハイツ	55	棚原
58	徳佐田	59	森川	60	千原
61	上原	63	翁長	65	坂田
67	呉屋	68	津花波	70	西原台団地
71	小橋川	73	内間	75	県営内間団地
76	掛保久	77	嘉手苺	79	小那覇
82	平園	84	兼久	86	与那城
88	美咲	89	我謝	93	西原ハイツ
94	安室	95	桃原	97	池田
98	小波津	101	小波津団地	103	県営西原団地
104	県営幸地高層	105	県営坂田高層	106	崎原
107	仲伊保	108	伊保之浜		

109 復帰関連の出来事

復帰への道	110	通貨切り替え
	112	琉球切手
復帰関連事業	113	復帰記念植樹祭
	114	若夏国体
	115	海洋博
復帰処理	116	交通方法の変更

117 復帰50年における
町制の歩み

118	町章・西原町民憲章
119	町木・町花・町花木
120	西原町歌・西原町音頭
121	非核反戦平和都市宣言
西原町名誉町民	122 平良 幸市
	123 呉屋 秀信
124	歴代村(町)長就退任
128	歴代村(町)議長就退任

130 昔懐かしい写真

155 謝辞、資料提供・協力者一覧

復帰までの経緯

日本が主権を回復してからも屋久島より南の島々は、まだ、米軍政府の統治下にありました。日本返還の順番から見てみましょう

西原町観光キャラクター「さわりん」



地理院タイルに日本復帰の経緯と説明を追記して記載

遠く与論町に見える「かがり火」

令和4年4月28日に10年ぶりに再現されたかがり火。遠く与論町の与論城跡のかがり火が見えるようす。



かがり火

沖縄返還を求めて、1963年から7年間にわたり、与論島と沖縄島で行われたかがり火。与論との連帯を示し、復帰運動を盛り上げる役割となった。写真は令和4年4月28日に、10年ぶりに再現されたようす。

歴史年表 (1945-1972)

年	月	主な出来事
1945年(昭和20)	3	米軍が3/26に慶良間諸島、4/1沖縄本島に上陸、沖縄戦がはじまる。
	8	米軍は各収容所から住民代表を集め、米軍政府の諮問機関である沖縄諮詢会を設置。
1946年(昭和21)	4	沖縄民政府が設立。知事には志喜屋孝信が指名される。
	10	奄美に臨時北部南西諸島政府庁が設置される。
1947年(昭和22)	3	宮古民政府、八重山民政府が設置される。
1948年(昭和23)	5	琉銀銀行が設立される。(米軍統治下の沖縄において、中央銀行のような役割)
	7	琉球列島唯一の法定通貨がB型軍票と定められた。
1949年(昭和24)	12	「民政議会」が公布。(宮古・八重山・奄美では、翌年1月に民政議会が設置)
1950年(昭和25)	11	沖縄群島政府、奄美群島政府、宮古群島政府、八重山群島政府が設立される。
1951年(昭和26)	4	琉球臨時中央政府が設立される。
1952年(昭和27)	4	琉球政府が設立される。(琉球政府は、琉球における政治の全権を行うことができるものの、米国民政府の布告・布令・指令に従うこととされました)
	4	「対日平和条約」(講和条約)が発効。(日本は独立を回復。しかし第3条で、沖縄・小笠原は米軍の支配下に置かれる)
1953年(昭和28)	4	「土地収用令」が公布。(真和志村、伊江島真謝、宜野湾伊佐浜などでは、「銃剣とブルドーザー」と呼ばれる強権的な土地接收が行われた)
	12	琉球列島の一部として米軍統治下におかれていた旧鹿児島県大島郡の奄美群島が日本に復帰。
1954年(昭和29)	4	琉球政府立法院が「土地を守る四原則」を掲げる。(米軍民政府が発表した軍用地料の一括払いの方針に対して、①一括払い反対②適正補償③損害賠償④新規接收反対)
1956年(昭和31)	6	ブライス勸告を契機に軍用地問題が島ぐるみ闘争へ発展。
1957年(昭和32)	7	初代高等弁務官にムーア中将が就任。(1957年(昭和32)6/5、アイゼンハワー大統領は「琉球列島の管理に関する行政命令」と題する「大統領行政命令」を発令)
1958年(昭和33)	9	琉球列島の法定通貨がB円からドルに切り替わる。
1960年(昭和35)	6	アイゼンハワー大統領が来沖。
1962年(昭和37)	2	琉球政府立法院が「2.1決議」を可決。(国連の植民地解放宣言を引用して、「沖縄に対する日本の主権がすみやかに完全に回復される」ことを求める「施政権返還に関する要請決議」)
1963年(昭和38)	3	キャラウェイ高等弁務官が沖縄の自治は神話であると演説。
1965年(昭和40)	8	佐藤栄作首相が来沖。
1967年(昭和42)	2	「教公二法」が廃案に追い込まれる。(教職員は復帰運動の中核を担っていたため、「地方教育区公務員法」及び「教育公務員特例法」は、教職員をはじめとする住民の激しい抵抗によって廃案となった)
	11	日米共同声明で両3年以内に沖縄返還時期について合意すべきとされる。(訪米した佐藤首相はジョンソン大統領と会談し、日本政府と日本国民は沖縄の施政権返還を強く要望)
1968年(昭和43)	11	初の主席公選で第5代行政主席に屋良朝苗が当選。
1969年(昭和44)	11	日本共同声明で沖縄の「72年返還」が決まる。
1970年(昭和45)	11	戦後初の国政参加選挙で沖縄代表が選出される。(衆議院議員に瀬長亀次郎、上原康助、安里積千代、西銘順治、参議院議員に喜屋武真栄、稲嶺一郎)
1971年(昭和46)	6	沖縄返還協定が調印。(「琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との協定」)
	11	琉球政府は復帰に関する沖縄側の要望をまとめた「復帰措置に関する建議書」まとめ、屋良主席はこれを携えて上京。「建議書」が提出されないうちに、沖縄返還協定は国会で強行採決される。
1972年(昭和47)	5	沖縄が日本に復帰する。

(人) 40000

西原町の人口の推移と主な出来事

戦後すぐの頃の学校の移り変わり

1946年6月(与那城341に開校) 西原東初等学校(附属幼稚園) → 西原初等学校へ改称
 1946年8月 西原西初等学校 → 坂田初等学校へ改称
 1946年9月 翁長658に移転

『統計にしはら』のデータを基に作成。
人口は、各12月末現在。



昭和48年ごろの西原平野



西原町の看板を掲げる



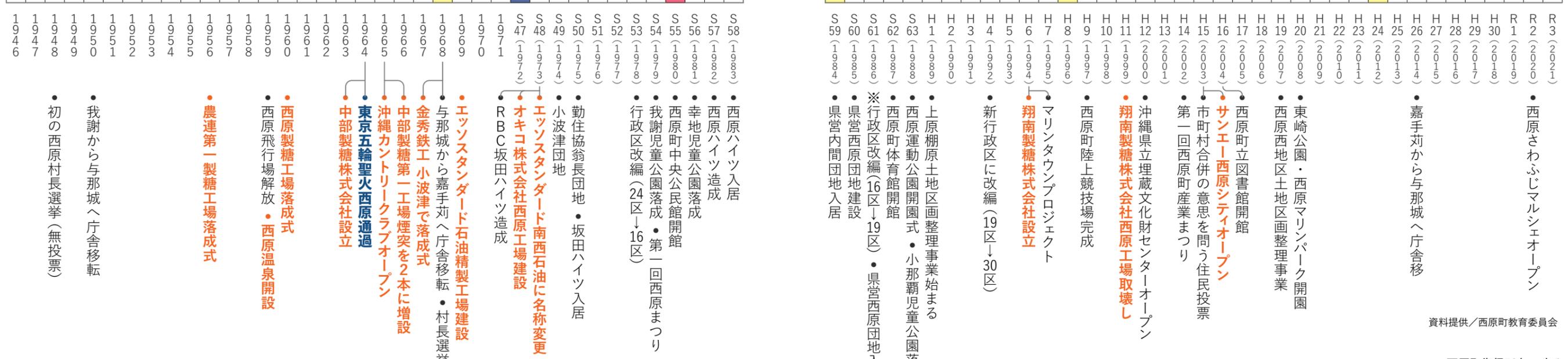
上原の高台から西原平野を望む(令和4年5月)

2012年(平成24)
人口3万5千人突破!

1996年(平成8)
人口3万人突破!

1984年(昭和59)
人口2万人突破!

1968年(昭和43)
人口1万人突破!



資料提供/西原町教育委員会

年表と写真で振り返る 西原町

年表と写真で振り返る
西原町

昭和19年→昭和24年

1940年代

太平洋戦争末期の沖縄戦は日本で唯一アメリカ軍が上陸し、防衛にあたる日本軍との熾烈な陸上戦となり民間人を含めて多大な犠牲が生じた。西原村は沖縄戦当時、日本軍の飛行場があったうえ、司令部がおかれた首里攻防をかけた激戦地となったため、住民の約47%が死亡するなど多くの被害を出した。

戦後は、部落の移転や選挙などが行われ戦後復興への道を歩みだした。

- 西原村の浜之御殿にて小那覇飛行場の起工式挙行(5/1)
- 西原村役場の一角に行政文書や重要書類保存のため、役場壕を掘る(6月)
- 旧日本軍独立歩兵第11大隊(石部隊)が西原村に駐屯(6/20)
- 西原国民学校の児童約140人余が学童疎開のため那覇に向かう(8/27)

学童疎開対馬丸の悲劇

1944年(昭和19)戦争の足跡が徐々に近づいてくると、老・幼・婦女子は県外へ疎開するように指示(公文 教親第595号)された。

対馬丸は大勢の学童集団疎開の子どもたちを乗せて、1944年8月21日に那覇港を出港。翌22日午後10時過ぎ奄美諸島の悪石島付近で米潜水艦ポーフィン号(「真珠湾の復讐者」の異名がある)の魚雷攻撃を受けて沈没。乗船者1788名(船員・兵員含む)のうち約8割の人びとが犠牲となった。那覇市若狭町の旭ヶ丘公園にある「小桜の塔」の碑には対馬丸遭難学童767名、引率教諭・世話人28名の名前が刻まれている。対馬丸が沈没した鹿児島県十島村悪石島には「対馬丸慰霊碑」、読谷村の古堅小学校の構内には対馬丸で犠牲となった古堅国民学校の児童15名を祀る「痛恨」、多くの遺体が流れついた奄美大島の宇堅村には「対馬丸慰霊之碑」がある。



奄美大島宇堅村の「対馬丸慰霊之碑」

- 西原国民学校の疎開児童、疎開先の宮崎県延岡に到着(9/8)
- 小那覇飛行場設営のため大規模な徴用開始(9/15)
- 西原村役場は空襲警報を発令、伝令(人)が字民に警報を伝える。小那覇飛行場、兼久の製糖工場が爆撃される(10/10)

十・十空襲

第二次世界大戦後期の1944年(昭和19)10月10日に南西諸島の広い範囲で海軍機動部隊が行った大規模な空襲。

- 西原村の青年200人余が現地入隊(10/15)
- 満18歳以上を兵役編入(10/18)
- 21歳～45歳の男子を防衛隊として召集(10/29)

1944

昭和19年

世の中の動き

- 学童疎開船対馬丸が魚雷攻撃で沈没766人が犠牲(8/22)

1945

昭和20年

世の中の動き

- 県立第一高女、南風原野戦病院に入隊(3/25)、鉄血勤皇隊編成(3/26)
- ニミッツ布告(米国海軍軍政府布告第一号)により、北緯30度以南の日本の行政権、司法権の停止を宣言(3/26)
- 米軍、慶良間諸島上陸(3/26)、沖縄本島中部に上陸(4/1)
- 沖縄県庁は真和志村楚辺から繁多川の壕へ移る(4/25)
- 第32軍司令部、首里を放棄し、摩文仁への撤退開始(5/27)
- 連合国最高司令官バクナー中将、戦闘指揮中戦死(6/18)
- 牛島司令官、長参謀長、摩文仁で自決(6/23)
- 沖縄での日本軍の組織的戦闘は終了(6/23)
- 米軍、沖縄作戦の終了を宣言(7/2)
- 広島に原子爆弾投下(8/6)、長崎に原子爆弾投下(8/9)
- 日本無条件降伏、第二次世界大戦終わる(8/15)
- ポツダム宣言受諾(8/14)、天皇戦争終結の詔書をラジオ放送(8/15)
- 戦後初の沖縄住民による行政組織、沖縄諮詢会が石川市にて設立(8/20)
- 沖縄での降伏調印式(9/7)

- 西原村の青壮年多数が西原国民学校駐屯の独立歩兵第11大隊や浦添国民学校駐屯の独立歩兵第14大隊へ現役兵入隊(1/5)
- 満17歳から45歳までの西原村民多数が防衛隊として召集(2/21)
- 西原村棚原に野戦病院(壕)を開設(2月)
- 西原村出身の婦女子多数が棚原野戦病院医務室、池田野戦病院等に召集(3/21)

ニミッツ布告

「日本帝国の政府のすべての行政権を停止」して南西諸島を米国海軍軍政府の管轄下におくことを宣言した。それ以後、沖縄は1972年(昭和47)5月15日まで27年間、米軍占領・支配下におかれることとなった。



米軍上陸拠点(読谷村)の風景
(沖縄県公文書館所蔵)



第96師団によって陥落したコニカル・ヒル(運玉森)
(沖縄県公文書館所蔵)

- 西原村民は池田のヘンサー帯へ避難、西原村役場の重要書類を焼却(4/1)
- 村長小波津正光(10代)以下、村民大多数が東風平村と具志頭村一帯に退避(4/25)
- 運玉森、米軍に占領される(5/25)
- 知念方面に避難していた西原村民はキャンプ内に収容される(6/1)
- 宮平一氏(元西原村長)、志喜屋区長に就任(6/7)
- 久志村の山中に潜んでいた住民(疎開した西原村民を含む)が集団で下山(7/3)
- 西原村内に潜んでいる日本軍敗残兵士に対する掃討作戦が激化(8月)
- 千原の陣地に潜伏していた山部隊の敗残兵数十人が投降(8/23)

原子爆弾投下

1945年(昭和20)8月6日午前8時15分、広島市上空のB29爆撃機「エノラ・ゲイ」からウラン型原子爆弾が投下された。8月9日午前11時2分、B29爆撃機「ボックスカー」が長崎市プルトニウム型原爆を投下。

ポツダム宣言

1945年(昭和20)7月26日、米英中3国首脳による日本への無条件降伏勧告「ポツダム宣言」が発せられた。日本政府はこれを黙殺しようとしたが、広島(8/6)、長崎(8/9)への原爆投下、ソ連対日参戦など追い詰められ、8月14日の御前会議でポツダム宣言の受諾を決定し、14日スイスを通じて連合国へ正式通告した。

降伏調印式

日本政府は1945年(昭和20)8月14日にポツダム宣言を受諾、9月2日米艦船ミズーリ艦上で降伏文書に調印。沖縄では9月7日南西諸島の全日本軍を代表して、第28師団の納見敏郎中将、奄美大島から高田利貞陸軍少将、加藤唯男海軍少将らが参列し、米軍に対して琉球列島の全日本軍は無条件降伏を受け入れる旨を記した降伏文書に署名した。これに対し、米軍を代表してスティルウェル大将が日本軍の降伏を受諾・署名し、沖縄戦は公式に終結した。

- 西原に潜伏中の敗残兵170人余が投降、屋嘉収容所に連行(9/9)
- 住民の旧移住地への移動開始(10月)
- 西原に駐留していた独立歩兵第11大隊第一中隊の兵士5人を収容(12/27)

1940年代

1946

昭和21年

世の中の動き

- 戦後初となる慰霊碑「魂魄之塔」を摩文仁村米須に建立(2/27)
- 沖縄民政府設立(沖縄民政府知事に志喜屋孝信を任命)(4/11)
- 第一次通貨交換。B円が沖縄での公式通貨になる(4/15)
- 琉球列島米軍政府、海軍から陸軍へ移管。沖縄基地司令部を琉球軍司令部(ライカム=Ryukyu Command headquarters)に改称(7/1)
- 第二次通貨交換。新旧日本円とB円が併用される(8/5)
- 本土、海外からの疎開者引き揚げ始まる
- 日本国憲法公布(11/3)、翌年5/3施行
- 沖縄民政府、東恩納より知念へ移転(10/21)

- 西原村我謝区に村民の居住許可(4/4)
- 玉那覇良信氏、西原村長に任命(第11代)(4/16)
- 我謝区役所を西原村役所に改称(4/30)
- 西原村農業組合を設立(5/31)
- 棚原区と幸地区に居住許可(6/2)
- 西原東初等学校、西原西初等学校の2校を創設(6/12)
- 棚原に居住が許可され、字民は主に知念地区の収容所から移動を開始(7/20)
- 西原東初等学校を西原初等学校に改称(8/31)
- 西原西初等学校は坂田の現在地へ移転、坂田初等学校に改称(9/2)
- 宮崎県から仲宗根英輝・比嘉松栄引率で178名の疎開学童児童が帰還(10/3)

日本国憲法

大日本帝国憲法にかわって1946年(昭和21)11月3日に公布され、翌年5月3日から施行された。それまで天皇が主権者として定められていた大日本国憲法を国民を主権者とするよう、太平洋戦争の終結直後GHQ(連合国最高司令官総司令部)の作成した原案をもとに作られた。国民の人権の保障を強化した「国民主権」、踐祚を放棄する「平和主義」、国民一人ひとりの生きる尊厳を保障する「基本的人権の尊重」は、日本国憲法の3つの基本原則とされている。前文および11章103条からなる。



糸満市の魂魄之塔(資料提供 屋良勝彦)



中城村の戦後引揚者上陸碑

第2次世界大戦後、海外にいた600万人を超える軍人・軍属、民間人が日本へ復員・引揚げました。沖縄においては、1946年(昭和21)8月17日公式の引揚げが開始し、日本本土と海外から多くの沖縄県人が引揚げられました

1947

昭和22年

世の中の動き

- 沖縄住民、沖縄全島にわたり屋間通行許可(3/22)
- 本土では6・3・3、男女共学の義務教育開始(4/1)
- うるま新報社設立(4/1)(現琉球新報社)
- 日本国憲法施行(5/3) 戦後最初の政党・沖縄民主同盟結成(6/15)
- 民政府公営トラック、バスがスタート(8/10)

1948

昭和23年

世の中の動き

- 沖縄6・3・3制の学制改革(4/1)
- 琉球銀行創立(米軍政府布告第1号に基づく特殊銀行)(5/1)
- 第三次通貨交換、全琉の通貨B円(軍票)に統一(7/17~7/21)
- 「沖縄タイムス」創刊(7/1)、琉球切手発行(7/1)、市町村制公布(7/21)
- ハワイ連合沖縄救済会、故郷へ豚550頭送る(9月)

- 翁長、新部落(坂田)への移動許可、建設作業開始(2月)
- 西原村青年団連合会結成(4/1) ※ 編集時点で調査確認できた方を掲載しています。

代	年代	氏名	代	年代	氏名	代	年代	氏名
初	1947年	宮平盛太郎	13	1959年	宮城勇光	25	1976年	喜屋武勝治
2	1948年	小橋川善伸	14	1960年	大城新一	26	1980年	与那嶺義雄
3	1949年	与那嶺浩	15	1962年	大城栄徳	27	1981年	与那嶺義雄
4	1950年	小波津正範	16	1963年	平安恒政	28	1982年	新垣良文
5	1951年	石原祐哲	17	1964年	泉川寛永	29	1983年	伊波英正
6	1952年	石原祐哲	18	1968年	玉那覇三郎	30	1984年	親泊輝明
7	1953年	呉屋伝三	19	1969年	泉川利夫	31	2008年	小橋川昌
8	1954年	玉那覇盛一	20	1971年	宮平正和	32	2009年	小橋川昌
9	1955年	城間期一	21	1972年	宮平正和	33	2010-2016年	屋嘉部景介
10	1956年	新川正雄	22	1973年	喜納昌春	34	2017-2019年	波平常義
11	1957年	新川正雄	23	1974年	喜納昌春			
12	1958年	崎浜盛徳	24	1975年	寄川孝勇			

- 平良幸市氏、沖縄民政府より村長に任命(第12代)(4/30)
- 沖縄戦で犠牲になった軍人軍属ならびに住民に対する慰霊祭挙行(5/31)
- 棚原区より徳佐田、森川、千原、上原の各部落への移動が許可(6/9)

- 戦後初の西原村長選挙で平良幸市氏無投票当選(第13代)(2/1)
- 戦後初の西原村議会を開催(3/16)
- 学制改革により西原初等学校(6か年)中学校(3か年)の併置校となる(3/31)
- 坂田初等学校、六・三・三制実施 坂田中等学校を開校(4/1)
- 米軍、西原飛行場の周囲を境界として、それ以外を農耕地として解放(8月)

ハワイ連合沖縄救済会、故郷へ豚550頭送る(9月)

戦前、沖縄から多くの移民が定着していたハワイでは、終戦直後から沖縄救済のための組織を結成し、衣類を送るなどの活動に積極的に取り組んでいた。太平洋戦争で壊滅的な被害を受け、荒廃し食糧難となった沖縄に対し、ハワイに移住したウチナーンチュから1948年(昭和23)年9月、550頭の豚がうるま市勝連にある米軍ホワイトビーチに到着。沖縄の養豚業を復活させて食糧難を解消するなど、戦後復興に大きく貢献するとともに、沖縄の豚食文化を絶やすことなく今に継承するという大きな役割を担った。

- 西原村婦人会設立(12/1)

婦人会

1948年(昭和23)結成準備段階の沖縄婦人連合会は、当時の平良幸市西原村長に対し、村婦人会結成の依頼状を提出。幸地、翁長、呉屋、小那覇、兼久、我謝、桃原、小波津に字婦人会が結成、同年9月に西原村婦人会が結成され、12月には初代会長に仲宗根カネが選任された。

- 西原村役所庁舎(瓦葺き平屋)を字与那城86番地に着工(11/10)

1949

昭和24年

世の中の動き

- 本土から沖縄へパスポート(旅券)の発行開始(3/29)
- 中華人民共和国成立(10/1)

年表と写真で振り返る
西原町

昭和25年→昭和34年

1950年代

1951年のサンフランシスコ平和条約によって日本は主権を回復したものの、沖縄は小笠原とともにアメリカの統治が続けられることとなった。アメリカの施政権にあった沖縄は、日本本土に行くにもパスポートが必要で、通貨はドルが使用され、道路は車が右、人は左とされた。

各地の収容所から解放され各字に引き揚げてきた住民が最初に行った作業は、遺骨の収集等であった。

- 字我謝区事務所から新築の西原村役所(字与那城)に移転(2/4)
- 土地所有権認定布告発布(4/19)
- 世界戦争犠牲者調査(昭16.12.8以降～昭21.8.15迄)(5/20)
- 西原村長選挙、玉那覇馨氏無投票当選(第14代)(9/3)
- 沖縄群島議会議員に平良幸市氏当選(11月)

- 西原村社会福祉協議会発足
- 灯火管制しかれる(1/10)
- 西原村農業協同組合を設立(8/23)

西原村農業協同組合売店
(1963年(昭和38)9月撮影)
(沖縄県公文書館所蔵)



サンフランシスコ講和条約

第2次大戦を終結させるために、日本と連合国との間で結ばれた条約。1951年(昭和26)9月サンフランシスコで、ソ連・ポーランド・チェコスロバキヤの3か国を除く連合国48か国と日本により調印。朝鮮の独立、台湾・千島・南樺太の放棄を日本は承認した。沖縄、奄美、小笠原諸島についてはアメリカの統治を続けることになった。

- 平良幸市氏立法員議員に当選(3/2)
- 遺骨収集(220柱、納骨堂に合祀)(3/16)
- 琉球教育法により、初等学校を小学校(西原小学校・坂田小学校)、中等学校を中学校(西原中学校・坂田中学校)に変更(4/1)
- 村行政区の変更(徴税や村民への伝達が困難など、6区制を24字制に戻す)(6月)

1950

昭和25年

世の中の動き

- 首里城跡に琉球大学開学、第1回入学式挙行(5/22)
- 朝鮮戦争起こる(6/25)
- 四群島政府(奄美・沖縄・宮古・八重山)発足、平良辰雄知事就任(11/4)

1951

昭和26年

世の中の動き

- 日本復帰促進期成会発足(4/29)
- 日米安保・講和条約(サンフランシスコ平和条約)調印(9/8)
- 米国琉球民政府の北部境界線を変更、北韓29度以北の7島返還(11/24)

1952

昭和27年

世の中の動き

- 群島政府解消(2/16)
- 第1回立法院議員選挙(3/2)
- 琉球政府発足。米軍、初代琉球政府行政主席に比嘉秀平氏を任命(4/1)
- 日米安保・講和条約(サンフランシスコ平和条約)発効(4/28)
- サンフランシスコ講和条約によりアメリカの施政権下におかれる(4/28)
- 第1回 戦没者慰霊祭を琉球大学校庭で開催(8/19)

1953

昭和28年

世の中の動き

- 第1回 祖国復帰県民総決起大会開催(1/18)
- 「土地収用令」公布(4/3) 伊江島土地闘争起こる(7/15)
- 奄美群島の施政権返還(12/25)



1955年(昭和30)7月 宜野湾伊佐浜の軍用接収地(沖縄県公文書館所蔵)

- 戦没者、現役、防衛隊の申告(6月)
- 村行政区の変更(24字制を改め6区制採用)(7月)
- 対日平和条約第3条撤去による祖国復帰要請決議(西原村議会)(12/30)

1954

昭和29年

世の中の動き

- アイゼンハワー大統領「沖縄基地の無期限管理」を宣言(1/7)
- 琉球放送局発足(4/1)
- 防衛庁、自衛隊発足(7/1)
- 琉球放送が民放ラジオ開始(10/1)

- 村行政区制度の変更(6区制を24字制に戻す)
- 西原村坂田幼稚園を開設(字翁長)(4/1)
- 西原村長選挙、玉那覇文雄氏無投票当選(第15代)(9/5)

1955

昭和30年

世の中の動き

- 宜野湾市伊佐浜の婦人代表、主席に立退反対を陳情(伊佐浜土地闘争)(1/31)
- 米兵の少女暴行殺人事件(由美子ちゃん事件)(9/3)

- 西原村慰霊塔除幕式及び第1回慰霊祭(7/17)

米兵の少女暴行殺人事件(由美子ちゃん事件)

1955年(昭和30)9月3日、石川市(現 うるま市)に住む永山由美子ちゃん(6歳)が嘉手納海岸で遺体となって発見された。暴行・殺害として米軍と沖縄県警が協力して捜査し事件発生2日後、嘉手納基地第22高射砲大隊第2が逮捕された。

米軍による軍用地接収をめぐる島ぐるみ闘争が高まっていたところでもあり、激しい抗議運動が展開された。抗議や世論の高まりにより米軍当局は厳重に処罰すると発表、同年12月6日に犯人に死刑を宣告したが、実際は米国に帰還し、責任の所在はうやむやになっている。

1950年代

1956 → 1958

昭和31年 → 33年

世の中の動き

- プライス勧告を公表(土地問題四原則を否定)(1956/6/8)
- 沖縄銀行設立(1956/7/10)
- 四原則貫徹県民大会開催(島ぐるみ闘争)(1956/7/28)
- 琉球政府第2代行政主席に当間重剛氏就任(1956/11/1)
- 米民政府、「米合衆国土地収用令」公布(1957/2/23)
- 米大統領の行政命令による高等弁務官制度開始(1957/6/5)
- 沖縄短期大学設置認可(1958/4/5) 沖縄短期大学開学式(1958/6月)
- 第40回全国高等学校野球選手権大会に沖縄から初めて首里高校が出場(1958/8月)
- B円からドルへ通貨を交換(120B円対1ドル)(1958/9/16)

1959

昭和34年

世の中の動き

- 沖縄キリスト教短期大学設置認可(2/28)
- コザ学園琉球国際短期大学設置認可(6/15)
- 石川市にF100戦闘機墜落。宮森小の児童・住民18名死亡(6/30)
- 沖縄でも9月15日を「としよりの日」に制定(「老人の日」、その後「敬老の日」に改称)
- 沖縄テレビ開局(11/1)
- 大田政作、主席就任(11/11)

- 農連第一製糖工場落成式・操業開始(1956/4/30)
- 軍用地問題四原則貫徹で村民大会(町婦人会を代表して屋比久ツルさんが意見発表)(1956/6月)
- 坂田小学校創立10周年記念式典(1956/9/29)

- ハワイより32名が西原村慰霊塔を参拝(1957/5/12)
- 西原村長選挙、大城純勝氏無投票当選(第16代)(1957/11/28)

- 西原村役所の位置を与那城85番地と定める(1958/2/28)
- 坂田小学校にトタン葺き給食小屋及び鉄棒完成(1958/9/9)

- 坂田中学校・西原中学校を合併し、「西原中学校」を開校(字翁長の旧国民学校敷地)(4/1)
- 米軍、旧西原飛行場を解放〔小那覇・東飛行場とも呼ばれた〕(4/30)



宮森小学校ジェット機墜落事故(沖縄県公文書館所蔵)

宮森小学校ジェット機墜落事故

1959年(昭和34)6月30日午前10時30分頃、米軍ジェット戦闘機が授業時間中の石川市(現うるま市)宮森小学校とその付近の民家に墜落炎上した。その被害は、死者17名(うち児童11名)、負傷者210名(うち児童156名) 公民館1棟、小学校の3教室を全焼、住宅8棟、2教室を半焼する大惨事となった。当時としては世界の航空史上まれな大事故として内外に報道された。

※ 宮森小学校では、事故が発生した6月30日に、「石川・宮森360会」と遺族会の共催で、市民、県民が参加し、犠牲者のご冥福を祈り、二度とこのような惨禍が起きないよう平和な沖縄を希求する決意を新たに、ジェット機墜落事故犠牲者慰霊祭を執り行っています。

年表と写真で振り返る 西原町

昭和35年—昭和44年

1960

昭和35年

世の中の動き

- 沖縄県は全小中学校のパン給食を開始(1/14)
- 沖縄県祖国復帰協議会(復帰協)結成、会長・屋良朝苗氏(4/28)
- 奥武山野球場開き(12/10)

1960年代

沖縄の復帰を求める声が高まり、活発な祖国復帰運動が始まった。アメリカは当時、ベトナム戦争が激化し、沖縄の基地がますます重要となったため、その安定的な運用も課題となっていた。1967年の佐藤、ニクソンの日米首脳会談が行われ、1972年中の施政権返還が決定された。

戦後復興のシンボルとなる東京オリンピックの聖火リレーが開催されるなどスポーツ分野における祖国とのつながりを感じる時代となった。

- 西原中学校の全生徒の移転を完了(9月)
- 西原製糖工場落成式(11/22)



沖縄県祖国復帰協議会結成大会(沖縄県公文書館所蔵)



チリ津波が沖縄本島中北部を襲う(死者3名)(5/24)(沖縄県公文書館所蔵)

- 西原小学校に給食室、宿直室、保健室完成(1/15)
- 西原村で米兵のジープ暴走、登校中の少女重軽傷
- 西原村長選挙、大城純勝氏無投票当選(第17代)(11/12)

1961

昭和36年

世の中の動き

- 沖縄大学、初の私立4年生大学として認可(2/18)
- 全沖縄軍労働組合(全軍労)結成(6/18)

1962

昭和37年

世の中の動き

- ケネディ米大統領、沖縄が日本領土であることを認める(3/19)

- 旧西原飛行場跡の復元補償の促進と実現を要請(米大統領、両院議長・他)(10/5)

1960年代

1963

昭和38年

世の中の動き

- 祖国復帰県民総決起大会、北緯27度線で初の海上集会(4/28)

1964

昭和39年

世の中の動き

- 下校の中学生信号無視の米軍トラックにひかれ死亡(国場くんれき殺事件)(2/28)
- 沖縄と本土側が北緯27度線で初の洋上交歓(4/28)
- 東京オリンピック開催(10/10~24)15日間

- 区長事務委託制実施(8/22)

- 農連第一製糖工場と西原製糖が合併し、中部製糖株式会社となる(5/1)
- 東京オリンピックの聖火、西原村を通過(9/9)



オリンピック東京大会聖火リレー (1964年(昭和39)9月撮影)(沖縄県公文書館所蔵)



オリンピック東京大会聖火リレーの面々 (資料提供 平安恒政)



オリンピック東京大会聖火リレー参加記念 1964・9・8 西原村
オリンピック東京大会聖火リレー参加メンバー(1964年(昭和39)9月8日撮影)(資料提供 平安恒政)



オリンピック東京大会 聖火トーチ (資料提供 平安恒政)



オリンピック東京大会 聖火ランナーユニホーム (資料提供 与那覇善信)

1965

昭和40年

世の中の動き

- 米軍、北ベトナムの爆撃開始(2/7)
- 佐藤栄作首相沖縄訪問(8/19~)
- イリオモテヤマネコ発見

- 運玉森に沖縄カントリークラブがオープン(7/1)



沖縄カントリークラブ (沖縄県公文書館所蔵)

- 西原村長選挙、新川崔吉氏無投票当選(第18代)(10/2)

- 『広報にしはら』創刊号を発行(4/1)



- 旧西原飛行場跡補償支払い開始(7/20)

大城立裕、「カクテルパーティー」で沖縄初の芥川賞受賞

1967年(昭和42)、第57回芥川賞は、大城立裕氏の「カクテル・パーティー」が受賞。この作品は米軍による国際親善がいかに虚妄の倫理で買われていたかを描いていた。

地元紙に「文学不毛の地と言われていた沖縄からの同賞受賞は、沖縄の文学界に大きな刺激を与えた」と掲載された。

1966

昭和41年

世の中の動き

- ビートルズ来日(6/29)
- 琉球政府立博物館落成(10/6)

1967

昭和42年

世の中の動き

- 大城立裕、「カクテルパーティー」で沖縄初の芥川賞受賞(7/21)

1960年代

1968

昭和43年

世の中の動き

- 嘉手納飛行場にB52駐留を始める(2/5)
- 小笠原諸島日本に返還(6/26)
- 第50回全国高校野球選手権大会 興南高校ベスト4進出(8/21)
- 第1回主席選挙、新主席に屋良朝苗氏当選(11/10)・就任(12/1)
- 嘉手納空軍基地で戦略爆撃機B52が墜落、炎上(11/19)

- 西原村の村章制定(7/1)
- 「西原の塔」の除幕式(西原村慰霊塔を改称)と慰霊祭(7/1)
- 西原村役場、自治の殿堂新庁舎が嘉手納112番地に完成(9/29)
- 西原村長選挙、宮平吉太郎氏当選(第19代)(9/30)
- 「外地戦没者の碑」の除幕式および慰霊祭(11/21)



村章

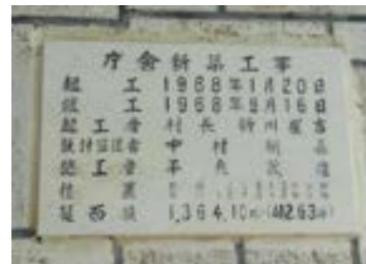
村名の頭文字「西」を図案化し、円は町民の融和団結を翼は村勢の雄飛発展の姿を表現、輝く西原村の将来を簡明に力強く象徴したもの



西原村慰霊塔(1963年(昭和38)9月撮影)(沖縄県公文書館所蔵)



村役場新築工事(資料提供 玉那覇三郎)



村役場新築定礎

1969

昭和44年

世の中の動き

- 佐藤・ニクソン共同声明発表「1972年核抜き本土並み返還で合意」(11/21)



興南高校ベスト4進出、帰沖(那覇港)8月31日撮影(沖縄県公文書館所蔵)



B52撤去デモ(1968年(昭和43)11月撮影)(沖縄県公文書館所蔵)



西原村長選挙 投票者 1968年(昭和43)1月(沖縄県公文書館所蔵)



西原村長選挙 開票風景 1968年(昭和43)1月(沖縄県公文書館所蔵)

- 西原村議会、「施政権返還に関する要請」臨時総会で決議(4/25)
- 西原診療所(医介輔:野原広和氏)を小那覇に設置、7月14日から開業。

年表と写真で振り返る
西原町

昭和45年→昭和54年

1970年代

復帰対策の中心となる「沖縄・北方対策庁」が設置されるとともに、沖縄復帰対策要綱がまとめられ、この要綱に基づき復帰の準備が進められた。1972年、沖縄が日本に復帰したことで、地方公共団体として沖縄県が置かれることになり、それ以外の分野においても、アメリカ制度から日本制度に移行するため様々な措置がとられた。

- 西原村議会、「女高中生刺傷事件／毒ガス撤去を決議」採択(6/21)

1970年(昭和45)12月20日の未明、コザ市(現 沖縄市)で反米騒動が発生

午前0時15分頃、コザ市中の町でキャンプ桑江の陸軍病院所属の米兵運転の乗用車が道路横断中の軍雇用員をひいてけがを負わせた。当時、糸満市の主婦をれき殺した米兵が、軍事裁判で無罪判決がでた直後だったことからMP(military police 憲兵)の事故処理に群集が「糸満のれき殺事件の二の舞を繰り返すな」と米軍への反感が高まっていた。コザ署員の説得で騒ぎはいったんおさまったが、MPの威嚇発砲をきっかけに、駐車中のMPや外人車両に次々と放火した。

事態を重視した警察本部は全警官を非常招集、また、米軍はカービン銃で武装したMP300人を出動させたが、約5,000人の群集とにらみあうなど、騒ぎは朝まで続いた。この騒動で住民、警察官ら23名が重軽傷を負い、MPに18名、コザ署に1名が逮捕された。日本復帰を目前にした時期に起こった事件は、日米両政府に衝撃を与えた。

- 北海道遺族団(約100名)、「西原の塔」参拝(2/25)



毒ガス移送(1971年(昭和46)7月19日撮影撮影)(沖縄県公文書館所蔵)

第一次毒ガス移送実施

1966年7月18日付米紙ウォール・ストリート・ジャーナルに美里村の知花弾薬庫(現・沖縄市嘉手納弾薬庫)内の「レッドハットエリア」地域内で毒ガス漏れの事故が起こり二十数名が病院に運ばれたと報道された。

1970年(昭和45)、米国防総省は沖縄からの毒ガス撤去を発表。ハワイ諸島の西方約1400キロにある米領ジョンストン島に移すことを決めた。

毒ガス移送は「レッドハット作戦」と呼ばれ、1971年の2回にわたり実施された。ガスもれ検知にはウサギが使われた。撤去ルートは、知花弾薬庫から東海岸の天願棧橋(現うるま市昆布)までの約11キロ。1月13日実施された第一次移送はマスタードガス150トン。移送ルート周辺の住民約5千人が集団避難し、北美小学校など中部の86校の小中高校が臨時休校した。第2次移送は7月15日から9月9日までの間、サリン、VXガスなど。住宅地をできるだけ避けるルートに変更したが、付近住民は自主的に避難し、不安と恐怖の中、不便な生活を強いられた。

1970

昭和45年

世の中の動き

- 沖縄北方対策庁発足(5/1)
- 毒ガス撤去を求める県民大会(7/30)
- 戦後初の国会議員選挙実施(11/15)
- コザ騒動発生(12/20)
- 大阪万国博覧会(3月)

1971

昭和46年

世の中の動き

- 第一次毒ガス移送実施(1/13)
- 沖縄返還協定調印(6/17)
- 復帰特別措置法公布(12/31)

1972

昭和47年

世の中の動き

- 米民政府解散(5/12)
- 日本政府、1ドル=305円交換レートを決定(5/12)
- 琉球政府閉庁式(5/13)
- 沖縄施政権返還(5/15)
- 通貨切替(ドルから円に通貨交換)開始(5/16)
- 戦後初の沖縄県知事選挙、屋良朝苗氏当選(6/25)・就任(6/30)
- 第一次沖縄振興開発計画スタート(12月)

- 西原村役所を西原村役場に改称(5/5)
- 西原村長選挙、宮平吉太郎氏当選(第20代)(9/17)

戦後初の沖縄県知事選挙、屋良朝苗氏当選

屋良朝苗は1902年(明治35)読谷村生まれ。沖縄県立第一高等女学校や台湾師範学校で教鞭をとり、台湾から沖縄へ戻った後、教育界復興と日本復帰運動に尽力した。

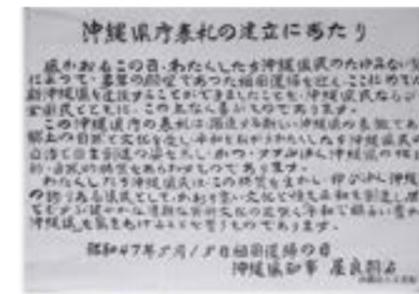
1968年(昭和43)、米国統治下での初の公選主席に当選。日本への施設政権返還後は初の県知事として1972年(昭和47)5月15日から1976年(昭和51)6月24日に退任するまで激動期の沖縄の行政を担った。



琉球政府閉庁式 1972年(昭和47)5月13日(沖縄県公文書館所蔵)



日本政府主催沖縄復帰記念式典 1972年(昭和47)5月15日(沖縄県公文書館所蔵)



謝花雲石揮毫の沖縄県庁表札 1972年(昭和47)(沖縄県公文書館所蔵)



沖縄県庁舎表札文字を見る屋良朝苗行政主席 1972年(昭和47)2月(沖縄県公文書館所蔵)

- 国民健康保険実施、住民基本台帳制度施行(1/1)
- 村役場、初の職員採用試験実施(4/14)
- 沖縄特別国体(若夏国体)開幕(5/3~6)
- 旧西原飛行場の復元補償問題で村長他6氏が上京(6/24)

1973

昭和48年

世の中の動き

- ベトナム和平協定(1/27)
- ニクソン米大統領ベトナム戦争終結宣言(4/29)
- オイルショック(10月)

1970年代

1973 昭和48年

- 米軍ヘリコプター池田に不時着事故(9/19)

米軍ヘリコプター池田に不時着事故

9月19日、午前10時30分ごろ、字池田の北方のキビ畑に在沖米軍所属のヘリコプターが不時着するという思わぬ事故が発生しました。軍事基地ゆえの、こうした事故は今まで本村とは直接的には関係のないものと考えがちで、私たち村民に大きなショックを与えるものでした。(広報にしはら1973年9月号より)

- 疎開学童を世話した姥田チカさん(82才)[宮崎県北方村]、村役場を訪問(10/1)
- 南西石油で原油流出事故発生(10/29)
- 普天間基地海兵隊所属のCH46中型ヘリ、小那覇に墜落炎上。(12/5)

普天間基地海兵隊所属中型ヘリ小那覇に墜落

12月5日、午後3時15分ごろ、小那覇250番地に、普天間第164海兵隊所属のCH-46中型ヘリコプターが墜落炎上し、搭乗員3名が死亡、2名が重傷を負うという恐ろしい事故が発生した。(広報にしはら1974年1月号より)



若夏国体大会旗炬火リレー
(資料提供 呉屋寛文)

聖マタイ幼稚園の不発弾爆発

1974年(昭和49)3月2日、那覇市小祿の聖マタイ幼稚園そばの下水道工事現場で重機が基礎工事用の鉄くいを打つ中、旧日本軍が使用した機雷に触れ爆発し、幼児含む死者4名、重軽傷者34名をだした。

- 西原村議会、「伊江村における米兵による発砲事件に対する決議」採択(7/31)

- 西原飛行場跡地地主会を結成(3月)。小那覇地主会(新川崔吉会長)、仲伊保地主会(新垣常夫会長)、伊保之浜地主会(玉那覇亀徳)。
- 西原村商工会、設立される(6月)

西原村商工会、設立される

商・工業が多くなってきている本村の中で、急速に高まってきていた村商工会の組織の設立が実現した。会長・小波津健、副会長・古波蔵保雄、小橋川一悟。スタート時の会員は192名。(広報にしはら1975年7月号より)

1974

昭和49年

世の中の動き

- 那覇市小祿の幼稚園構内で不発弾爆発、幼児4人が死亡(3/2)
- 県道104号線での米軍実弾演習開始(10/17)

1975

昭和50年

世の中の動き

- 沖縄国際海洋博覧会(海洋博)開幕(7/20)～閉幕(7.1.18)

1976 → 1978

昭和51年 → 53年

世の中の動き

- 具志堅用高、世界ジュニア・フライ級チャンピオンに(1976/10月)
- 交通方法、日本式の「人は右、車は左」に変更(ナナサンマル)(1978/7/30)
- 日中平和条約調印(1978/8/12)
- 「沖縄平和祈念堂」開堂式(10/1)
- 平良知事の病氣辞任による知事選で西銘順治氏当選(12/11)

1979

昭和54年

世の中の動き

- 国会で元号法が成立(6/6)、公布施行(6/12)
- ソ連の原子力潜水艦、沖縄近海で火災事故(8/21)
- 沖縄県戦災被害者の会(6歳未満)結成(12/4)

- 県立西原高等学校開校(字翁長610番地)(4月)

学校名	男	女	計	学校名	男	女	計	学校名	男	女	計	学校名	男	女	計
嘉数	23	13	36	首里	17	10	27	古蔵	7	4	11	普天間	1	1	2
中城	6	21	27	真和志	30	15	45	垣花	0	0	0	伊平屋	1	0	1
西原	50	57	107	石田	3	4	7	小録	3	0	3	コザ	1	0	1
浦添	28	11	39	那覇	23	4	27	松島	15	10	25	小岩第四	1	0	1
仲西	7	6	13	上山	13	2	15	城北	5	6	11	沖縄盲学校	0	1	1
神森	4	2	6	神原	8	14	22	南大東	1	5	6	計	260	190	450
安岡	5	4	9	寄宮	7	0	7	北大東	1	0	1				

- 西原村スポーツ少年団結成(6月)

西原村スポーツ少年団

青少年がスポーツ活動や文化活動、奉仕活動を計画的、かつ持続的にを行うことを目的として結成された。

- 南西石油で原油炎上事故発生(1976/6/6)
- 平良幸市氏沖縄県知事に当選、新知事就任(6/25)
- 西原村長選挙、宮平吉太郎氏当選(第21代)⇒〔初代・町長〕(9/19)

- 北海道道北地区沖縄戦没、英霊33回忌の慰霊祭(2月)
- 行政区改編(24字制から16行政区に改める)(9/1)
- 第1回村芸能文化祭を西原中学校体育館で開催(11/3)

- 交通方法変更、役場職員による街頭指導(8月5日まで)(7/30)
- 村役場ホールを議場に改築(9月)※村議会議員定員増のため
- 第1回西原まつりを西原中学校で開催(12/2.3)

- 西原村から西原町へ町制移行(4/1)

西原村から西原町へ

70年間繁栄を続けていた村制に終止符を打ち、新生「西原町」(官報自治省告示第63号)が名実ともに誕生。町では4月2日(月)午前9時30分から、町役場庁舎玄関入口で宮平町長と平安助役の手で「西原町役場」の表札が掲げられた。表札は黒のみかげ石で長さ1メートル、幅32センチで筆跡は新川善一郎氏(北谷高校教諭)によるもの。

- 西原町中央公民館・社会福祉センター落成記念式典(5/26)
- グスク時代の須恵器見つかる(6月)
- 集団学童疎開76名、宮崎県延岡市南方を訪問(7/27)



年表と写真で振り返る
西原町

昭和55年→平成元年

1980年代

沖縄戦による荒廃、広大なアメリカ軍施設の存在、施政権が本土から切り離されたことで、沖縄と本土との間に社会的経済的な格差が生じていた。財政基盤の弱い沖縄の市町村は、政府から高率の財政援助を受けて道路・湾港・福祉施設・教育施設などの社会資本を整えて地域活性化を図ってきた。(沖縄振興開発計画第2次1992年-2001年)

- 第1回町マラソン大会(町体育協会主催)開催。中学生、高校生、一般、壮年を含め170名参加
- 西原町長選挙、宮平吉太郎氏当選(第2代)(9/21)

- 西原町子ども会育成連絡協議会結成(2/7)
- 字上原で宅地造成中に迫撃砲弾(不発弾)が自然爆発(9/11)
- 西原東小学校開校式(於:西原小学校体育館)、間借り授業(~10月4日)
- 西原東小学校新校舎への移転式(西原小学校から移転パレード)(10/5)



西原東小学校への移転パレード
(1981年10月)

- 「西原町総合計画基本構想」を議決、将来像を「文教のまち西原」と定める(1/19)
- 西原小学校創立百周年記念式典(6/12)
- 西原町民憲章を制定(9/9)

西原町民憲章

- 一、わたしたちは、緑を豊かにし、美しいまちをつくりましょう
- 一、わたしたちは、つねに学び、文化の高いまちをつくりましょう
- 一、わたしたちは、だれにも親切にし、互いに助け合いましょう
- 一、わたしたちは、勤労感謝の心を養い、物を大切にしましょう
- 一、わたしたちは、スポーツに親しみ、健康の増進につとめましょう
- 一、わたしたちは、時間を守り、すすんであいさつをしましょう

- 沖縄戦没者遺骨収集作業、字小波津・幸地などの陣地壕(~23日)(2/18)
- 米軍ヘリコプター字上原に不時着事故(11/12)
- 幸地(沖縄アドベンチストメディカルセンター病院造成現場)で不発弾(米国製250キロ)撤去。

1980 → 1981

昭和55年→56年

世の中の動き

- ソ連の原子力潜水艦、沖縄近海で火災事故(1980/8/21)
- イラン・イラク戦争始まる(1980/9/22)~停戦(1988.8.20)
- 6歳未満の戦傷病者戦没者遺族に「援護法」適用(1981/8/17)
- ヤンバルクイナ、野鳥の新種と認定(1981/11/13)
- 北谷町ハンビー飛行場及びメイモスカラー射撃場の返還(美浜地区)(1981/12/31)

1982

昭和57年

世の中の動き

- 嘉手納基地周辺住民、爆音訴訟を提訴(1982/2/26)
- 一坪反戦地主会結成(12/12)
- 第2次沖縄振興開発計画

1983

昭和58年

世の中の動き

- 「沖縄戦記録フィルム1フィート運動の会」結成(12/8)

1984

昭和59年

世の中の動き

- 沖縄戦記録フィルム上映会(5/16)
- 琉球大学附属病院、字上原に移転後の診療開始(10/15)

- 町史の第一冊目として『西原町史第二巻 資料編一 西原の文献資料』発刊(3/20)
- 16行政区を18行政区に改編。新行政区に西原ハイツ(17区)、県営内間団地(18区)(4/1)
- 給食センターオープン(4月)
- 西原児童館オープン。
- 西原町長選挙、平安恒政氏当選(第3代)(9/11)
- 東部清掃組合の新しい清掃工場が与那原町板良敷に完成(3月)

1985

昭和60年

世の中の動き

- 沖縄国際センター開所(4/17)
- 第1回宮古島トライアスロン大会(4/28)
- 文部省、「日の丸」「君が代」促進の通知
- 第1回NAHAマラソン開催(12/8)

- 坂田小学校体育館が完成(3月)
- 浦添警察署が開署、西原町は与那原署から浦添署の管轄に移管(4月)
- 国勢調査2万1981人(概数)、5年間の人口増加率34.8%は県内トップ
- 「西原町非核反戦平和都市宣言」を決議

1986

昭和61年

世の中の動き

- 「日の丸」「君が代」反対県民総決起大会(2/25)
- チェルノブイリ原発事故発生(4/26)

- 西原町民体育館落成記念式典(字翁長956番地)(4/19)
- 西原郵便局、装いを新たにオープン(11/20)
- 「非核反戦平和都市宣言」広告塔建立(12/5)



① 旧役場建立
(1986年(昭和61)12月)

- 『西原町史第三巻 資料編二 西原の戦時記録』発刊(3/31)
- 西原運動公園開園式(字翁長)(5/26)
- 嘉手納基地包囲大行動(人間の鎖)(6/21)



嘉手納基地包囲大行動(人間の鎖)(資料提供 喜屋武政男)

1980年代

1987 昭和62年

- 「広報にしはら」第200号発刊(9/1)
- 海邦国体夏季大会(9/20～23)、海邦国体秋季大会(10/25～30)



海邦国体秋季大会 (資料提供 屋良勝彦)

- 西原東中学校分離・開校式および落成式(4/5)
- 西原町長選挙、平安恒政氏無投票当選(第4代)(9/5)

1988

昭和63年

世の中の動き

- 沖縄自由貿易地域那覇地区完成(5/26)
- 沖縄電力民営化(10/1)

1989

昭和64・平成元年

世の中の動き

- 昭和天皇崩御(1/7)、1月8日に元号が平成となる
- 消費税法を施行、税率は3%(4/1)
- 「慰霊の日」休日廃止で紛糾、県道族連合会が存続要請(4/21)
- 沖縄キリスト教短期大学、那覇市首里より移転(字翁長777番地)(9/9)
- 自治会連絡協議会が発足(12/7)

- 西原町制施行10周年記念式典(4/1)



町政施行10周年記念式典・祝賀会(1989年(昭和63)4月)

年表と写真で振り返る 西原町

平成2年→平成11年

1990年代

戦後50年の節目である1995年は、「阪神淡路大震災1月」、「地下鉄サリン事件3月」と衝撃的な出来事が続いた。沖縄では戦没者の追悼と世界の恒久平和を願う「平和の礎」をはじめとする、沖縄戦を改めて考える事業が開かれた。そのような中、起こった米兵による少女暴行事件は、復帰後も続く沖縄差別の構図を露呈させ、日米両政府に対する沖縄県民の怒りは様々な立場を超えて燃え上がり、基地の整理・縮小へむけて大きな運動を展開した。

1990

平成2年

世の中の動き

- 「慰霊の日」休日存続(3月、審議未了)
- 第1回世界のウチナーンチュ大会開催(8/23～26)
- 大田昌秀、沖縄県知事に当選(11/18)

- 那覇広域都市計画事業上原棚原土地区画整理事業の工事を着工(1/22)
- 西原町国際親善ゲートボール大会を開催(8/18)
世界のウチナーンチュ大会に参加するブラジル県人会(10チーム 98名)、町老人クラブ(14チーム 118名)が参加し友好を深めた
- 西原町国際親善の集い(8/25)
- 西原町文化協会設立総会(4/22)初代会長:平敷静男氏
- 西原共同福祉施設が字小橋川に完成(6/7)
- 西原町PTA連絡協議会創立10周年記念式典
- バレーボール競技の普及・発展、愛好家の親睦を図るため、第1回町バレーボール祭りが町民体育館を会場に開催された。小中高生はじめ一般、婦人まで350人が参加(9/8)
- ～暴力団を壊滅し平和の街を守ろう～をスローガンに西原小学校グラウンドで「暴力団壊滅西原町民総決起大会」が開催(12/22)



「創造・振興・発展」をテーマに第1回文化祭を開催(11/3)
(資料提供 屋良勝彦)



「暴力団壊滅西原町民総決起大会」が開催

1990年代

1991

平成3年

世の中の動き

- 湾岸戦争始まる(1/17～2/28)
- ソ連解体(12/25)

- 新行政区に改編(19区制から30区制へ)(4/1)
- 反戦平和を希求する日として第1回町平和駅伝が西原の塔をスタート・ゴールに開催(6/23)

平和駅伝

6月23日を単なる「慰霊の日」の休日に止めず、『反戦平和を希求する日』として位置づけ、広く町民と共に反戦平和を内外にアピールするために開催された。開会式では参加者全員による西原の塔前で黙とうが行われた。

各行政区単位(小学生から婦人・壮年)12名、12区間、13.2キロ、15チームが参加。「恒久平和は人類の願い」と記されたタスキを繋いだ。



平和駅伝(資料提供 屋良勝彦)

- 町民陸上競技場供用開始(8月)
- 町文化協会が群馬県高崎芸術短期大学で公演(10/7)
- 町道安室～池田道路改良工事中に桃原地内で、遺骨4柱が発見され、1月8日県援護課や町・工事関係者らによって収集された(12/27)
- 第1回町24時間ソフトボール大会が開催され250人が参加。紅白に分かれ、115イニングをプレーした。(12/31)



遺骨とともに「中田」贈?中第14回卒業生」と刻まれた印鑑や軍靴、羅針盤、ナイフなどが見つかった。

- 那覇広域都市計画事業上原棚原土地区画整理事業の工事を着工(1/22)

中部圏を舞台に初のフルマラソン「93おきなわマラソン大会」が県総合運動公園をスタート・ゴール、5,993名がフルマラソンに挑戦した。

- 地域づくり推進事業の一環として中型バス、45人乗りを購入。運行式が行われた(3/11)
- 西原南小学校・幼稚園が開校(字安室)(4/4)
- はばたき共同作業所がオープン(5/1)
- 町初の少年少女水泳大会が西原小学校水泳プールで、町内4小学校児童の親睦を図る目的で行われた。(9/5)
- 学校週5日制がスタート(9/12)
- 西原町長、平安恒政氏就任(第5代)(10/6)



西原町少年少女水泳大会

1993

平成5年

世の中の動き

- 細川連立政権誕生(8/9)、自由民主党は結党(1955)以来初めて野党になる。
- 宮古・八重山で民放(RBC、OTV)放映開始(12/16)

- 兼久に本格ゲートボール場が完成(5月)
- 町役場が土曜閉庁(9月)
- 社団法人西原町シルバー人材センター設置許可証交付(11/1)
- 西原町戦没者刻銘平和記念碑除幕式(西原の塔)(11/23)



西原町戦没者刻銘平和記念碑は、西原町遺族会が同会の創立40周年記念事業の一環として建立したもので、日露戦争から太平洋戦争までの間に戦争の犠牲となった軍人軍属1,110人の名前と字名ごとの犠牲者数が刻まれている(資料提供 屋良勝彦)

1994

平成6年

世の中の動き

- 沖縄県知事に大田昌秀氏再選(11/12)

- 西原町制施行15周年記念式典開催(4/1) ※15周年事業として町伝統芸能団がハワイ公演(10月)
- 西原東児童館が字嘉手苅に完成(5/2)
- 西原町女性連絡協議会結成総会(6/14)
- 音楽を通して恒久平和を実現しようと「第1回西原町平和コンサート 平和の響き」を町民体育館で開催(6/23)
- 西原町シルバー人材センターが事務所開き(10/7)
- 国道329号沿いの商店街や事業所などでつくる「サワフジ中央通り会」が坂田通り会、産業道路通り会に続いて本町3番目の通り会になった。(10/7)

1992

平成4年

世の中の動き

- 沖縄県復帰20周年記念式典(5/15)
- 首里城公園開園、首里城正殿を復元(11/3)

1995

平成7年

世の中の動き

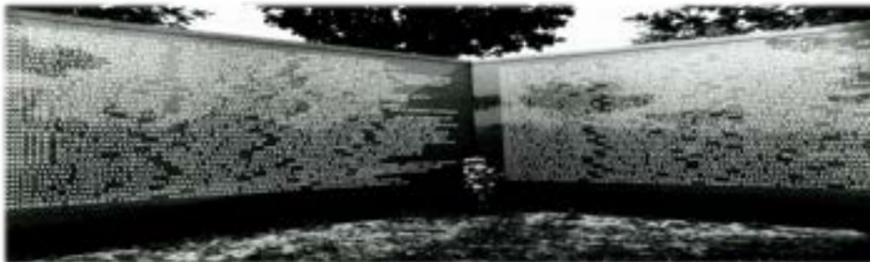
- 阪神淡路大震災が起こる(1/17)
- 沖縄戦終結五十周年記念県民遺骨収集(糸満市ほか)(1/22)
- 「平和の礎」建立(6/23)
- 米兵による少女暴行事件発生(9/4)
- 暴行事件を糾弾し、地位協定を見直しを要求する県民総決起大会(10/21)

- 北海道根室市北方少年少女沖縄訪問団が来町(1/13)
- 平安恒政町長、阪神大震災被災地を訪問(2/21)
- 30行政区を31行政区に。県営幸地高層住宅(31区)を新設(4/1)
- 太平洋戦争・沖縄戦終結五十周年記念事業 西原南小学校植樹祭(7/2)
- 終戦五十周年町戦没者追悼式(西原の塔)(10/27)
- 第2回世界のニシハランチュの集い開催(11/14)



暴行事件を糾弾し、地位協定を見直しを要求する県民総決起大会(10/21)(資料提供 屋良勝彦)

1995 平成7年



(資料提供 屋良勝彦)

平和の礎

「平和の礎」は、敵・味方、軍人・民間人、国籍の区別なく、沖縄戦で戦没した24万余の名前を刻んだ碑で、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年にあたる1995年6月、沖縄県（県知事大田昌秀）「沖縄国際平和創造の杜構想」の一環として建立された。

※沖縄国際平和創造の杜構想とは、沖縄戦終焉の地である糸満市摩文仁一帯を「沖縄国際平和創造の杜」として整備し、世界に平和を発信する地にするという構想。

「平和の礎」の建立する基本理念

「戦没者の追悼と平和記念」

去る沖縄戦などで亡くなられた国内外の20万人余のすべての人々に追悼の意を表し、御霊を慰めるとともに、今日、平和を享受できる幸せと平和の尊さを再確認し、世界の恒久平和を祈念する。

「戦争体験の教訓の継承」

沖縄は第二次世界大戦において、住民を巻き込んだ地上戦の場となり、多くの貴い人命とかけがえのない文化遺産を失った。このような悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく継承していく。

「安らぎと学びの場」

戦没者の氏名を刻銘した記念碑のみの建設にとどめず、造形物を配して芸術性を付与し、訪れる者に平和の尊さを感じさせ、安らぎと憩いをもたらす場とする。また、子供たちに平和についての関心を抱かせるような平和学習の場としての形成を目指す。

1996

平成8年

世の中の動き

- 橋本首相と駐日モンデール大使が普天間飛行場を返還すると発表(4/12)
- 普天間基地返還は移設条件付きであることが判明(4/14)
- 沖縄県議会、県内移設に反対する決議(全会一致)(7/16)

- 『太平洋戦争・沖縄戦 西原町世帯別被災者記録』を発行(3/28)
- 31行政区を32行政区に。県営坂田高層住宅(32区)を新設(4/1)
- 初の町営住宅が完成。鉄筋コンクリート3階建1棟6戸で3LDKの間取り(5月)



町営住宅

- MTP(マリンタウン・プロジェクト=中城湾港[西原・与那原地区]埋立事業)の起工式(5/30)
- 西原町長選挙 翁長正貞氏当選(第6代)(9/11)
- 坂田小学校創立50周年記念式典(11/15)

1997

平成9年

世の中の動き

- 沖縄県知事に大田昌秀氏再選(11/12)

- 西原38通り会を設立(2/22)
- 西原高校マーチングバンド、第13回世界音楽コンクールで、パレードとショーの2部門で金賞を受賞(7/27)
- 議会の活動や議員の役割について学び、自分たちと行政の関わりを考える契機にしようと、町立中学校の3年生22人による、「西原町子ども議会」が町議会議場で開催された(11/11)



西原町子ども議会

1998

平成10年

世の中の動き

- 小淵恵三内閣発足(7/30)
- 沖縄県知事に稲嶺恵一氏当選(11/15)

- 第1回各区対抗少年少女陸上競技大会が町陸上競技場において16区が参加し行われた。
- 映画「GAMA 月桃の花」上映会(中央公民館)(7/23)
- ジュニアピースメッセンジャー長崎へ(～10日)(8/7)



第1回各区対抗少年少女陸上競技大会

1999 平成11年

世の中の動き

- 稲嶺知事、普天間基地の移設先を辺野古沿岸域と発表(11/22)
- 岸本名護市長、条件付きで移設受け入れ表明(12/27)

- 西原町婦人連合会創立50周年記念式典(2/7)
- 町制施行20周年記念式典(4/1)
- 西原町戯曲大賞(宮良邦夫氏作品「天使金丸」)贈呈式(4/7)
- 西原さわふじチームが大分県で開催された全国選抜ゲートボール大会で優勝(5/15)
- SONY坊やは交通安全マスコットとして県内だけに当初46体設置されてきましたが、6体しか残っておらず、翔南製糖工場前にあったSONY坊やをさわふじ通り会がお色直しを行い宮平プロパン(字兼久)駐車場に設置(6/8)
- マリントウン新字名「東崎」に決定(6/28)
- 西原町のホームページがスタート(9/1)
- 「議会だより」発行(9/1)
- 西原町文化協会設立10周年記念事業、新作組踊「天使金丸」を宜野湾市市民会館で公演(11/12)
- 西原中学校創立40周年記念式典(11/11)
- 町制施行20周年記念壕跡保存整備事業(11/12)



SONY坊や



新作組踊「天使金丸」



年表と写真で振り返る 西原町

平成12年→平成21年

2000

平成12年

世の中の動き

- 名護市でG8サミット開催(沖縄サミット)(7/21~23)
- 「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」の世界遺産登録決定(11/30)

2001

平成13年

世の中の動き

- 米本土で同時多発テロ(9/11)国会、対テロ特措法成立(10/29)

2000年代

2000年7月に開催された「九州・沖縄サミット(第26回主要国首脳会議)」、2001年連続テレビ小説「ちゅらさん」を契機として、全国的な沖縄ブームが高まりを見せ始めていた。

ところが2001年9月に発生したアメリカ同時多発テロがブームに水を浴びせた。米軍基地の集中する沖縄への観光旅行のキャンセルが相次いだ。

国の復帰30周年事業の一環として、世界一と世界初がここにあるというキャッチフレーズで「美ら海水族館」がオープンした。

西原町でもマリントウンや大型商業施設などの開業が進み、まちの発展が進む時代となった。

- 沖縄県立埋蔵文化財センターがオープン(4/1)
- 西原町長選挙 翁長正貞氏当選(第7代)(9/19)
- 西原町PTA連合会創立20周年記念式典(中央公民館)(12/10)

- 西原町子ども育成連絡協議会20周年記念式典(3/24)
- 東崎都市緑地(イルカ公園)が開園
- マリン・タウン地内の橋名が「サワフジ橋」、「雄飛橋(ゆうひばし)」、「あがりざき橋」と決定(11月)
※雄飛橋(ゆうひばし)、マリントウンが21世紀西原町の発展に、雄々しくはばたいていく意をこめて、あがりざき橋、マリントウン地区の新しい字名をとる。
- 西原東小学校創立20周年記念式典(12/15)
- 翔南製糖株式会社西原工場閉鎖(取り壊し)(12/27)



サワフジ橋

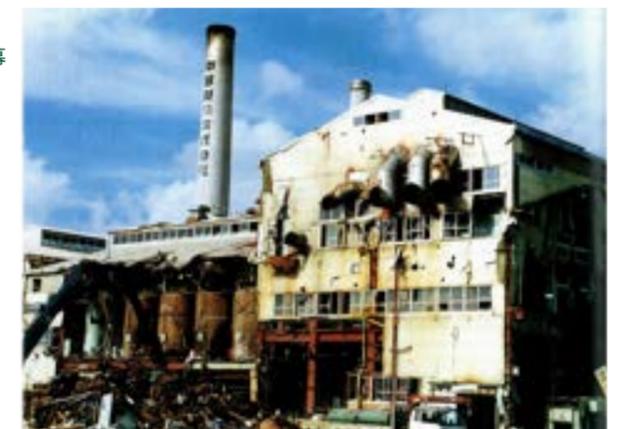


あがりざき橋



雄飛橋(ゆうひばし)

中部製糖工場
長年の歴史に幕



2000年代

2002

平成14年

世の中の動き

- 沖縄県知事選で稲嶺恵一氏が再選(11/17)

- 坂田保育所・坂田児童館が完成(3月)
- 県内自治体初のパークゴルフ場完成(4/27)
- 祖国復帰30周年、平和憲法記念碑を建立(10/10)
- 第1回西原町産業まつり(12/7)

祖国復帰30周年
平和憲法記念碑



2003

平成15年

世の中の動き

- 沖縄都市モノレール「ゆいレール」開業(8/10)

- 西原町・宜野湾市・中城村任意合併協議会発足(1/14)
- マリントウン西原東崎住宅用地分譲開始(4月)
- 健康福祉の拠点いいあんべー家オープン(4/7)
- 西原町の合併について意思を問う住民投票(投票成立要件50%を下回り不成立)(9/14)

西原町合併不成立

宜野湾市、中城村との法定合併協議会設置の賛否を問う住民投票は9月14日に行われた。7,549人が投票したが、投票率30.194%と成立条件を50%とした町条例の規定を下回ったため、不成立となり開票されなかった。結果を受け、翁長町長は「投票した町民の皆様には感謝するとともに、誠に残念だが、町民の枠組みに対する反対の意思表示と重く受けとめているので、現在の枠組みでの法定協議会移行は断念せざるえない。法定協議会設置案件を9月町議会には提案しない」と明言。

- サンエー西原シティ オープン(字嘉手苧130番地)(10/1)
- 沖縄戦の教訓を後世に継承しようと、地元住民戦没者刻銘碑が西原の塔内に完成した(10/31)



サンエー西原シティ



地元住民戦没者刻銘碑

2004

平成16年

世の中の動き

- 国立劇場おきなわ開場(1/18)
- 沖縄国際大学にCH53大型ヘリが墜落、炎上(8/13)

- 沖縄キリスト教短期大学内に沖縄キリスト教学院大学開学(字翁長777番地)(4/1)
- 行政チェックマンに委嘱状(4/2)
- 町民テニスコートが完成(5/1)
- 沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事件を受け、翁長正貞町長と与那嶺義雄議長が現場確認したが立入を拒否される(8/14)



沖縄キリスト教学院大学

- 西原町立図書館開館(字与那城152番地の5)(8/20)
- 西原町長選挙 新垣正祐氏当選(第8代)(9/12)
- 96式15糎榴弾砲が字幸地の陣地壕跡から発見された(12月)

2005

平成17年

世の中の動き

- 日米両政府、普天間基地の移設先を辺野古(キャンプシュワブ)沿岸で合意(10/29)



CH53大型ヘリが墜落した現場(現在)



96式15糎榴弾砲
(資料提供 屋良勝彦)



西原町立図書館開館

- 町役場に総合案内を設置(1/4)
- 島袋宗徹(那覇市首里在)さんが、沖縄関係の貴重な図書を含む274冊を町図書館に寄贈(1月)
- すぐやる課が新設(4/1)
- 字幸地で見つかったアメリカ製250キロ爆弾の処理作業が実施された(4/2)
- 「広報にしはら」400号発刊(6月)
- 戦後60年を迎え、あらためて平和について考えようと、町内の各施設や小中学校などで「慰霊の日」に向けて平和資料展やイベントが開催された(6月)
- マリントウン内の道路が開通(8/9)
- 永遠の平和と反戦を誓い平和教育に活用するために榴弾砲を図書館前に設置(8/15)
- 「バレーボールのまち西原」を宣言(12/5)
- 新作組踊「内間御鎖金丸」を町運動公園夕日の広場で講演(12/7)



「バレーボールのまち西原」宣言式典



2000年代

2006

平成18年

世の中の動き

- 沖縄県知事選挙に仲井真弘多氏当選(11/19)

- 西原幼稚園新園舎完成(3月)
- 伊是名村・西原町、尚円王をとおして文化交流(8/4)
- 「第4回ニシハランチュの集い」をかねひで都パレスで盛大に開催(10/12)

2007

平成19年

世の中の動き

- 集団自決の教科書記述をめぐる県民大会(9/29)
- 県立博物館・美術館おもろまちに開館

- 小那覇交番が新設移転(2/20)
- 西原高校マーチングバンド世界一の功績をたたえ顕彰碑を建立(3/25)
- 町立図書館入館者50万人達成(4/14)



西原高校マーチングバンド世界一顕彰碑



町立図書館入館者50万人達成

- 東崎公園開園(4/21)
- 西原マリナーパーク開園／海開き(4/28)
- さわふじ青年エイサーまつりがサンエー西原シティー屋外駐車場で開催された。兼久、小那覇、内間団地、内間の青年会が参加。



西原マリナーパーク開園／海開き

2008

平成20年

世の中の動き

- 米国大統領選挙でバラク・オバマ氏が当選、黒人初の大統領に(11/4)

- 西原東中学校創立20周年記念式典(2/17)
- 「資料に見る西原」ビジュアル版を発刊(3/20)
- 「うたの日カーニバル2008」西原マリナーパークで開催(6/28)
- 西原町長選挙 上間明氏当選(第9代)(9/7)
- 西原町乗合タクシー・バス実証実験(9/1～11/29)
- 村制移行100周年記念フォーラム(11/3)



「うたの日カーニバル2008」

2009

平成21年

世の中の動き

- 裁判員制度施行(9/1)
- 衆院選で民主党圧勝、政権交代で鳩山内閣誕生(9/16)

- 町教育委員会と沖縄キリスト教学院大学・短期大学が地域連携事業の協定を締結
- 西原町バスケット協会が設立(5/10)
- 西原町議会が、日本兵5人の遺体が発見された字幸地内の壕を視察(9/24)

重なり合うようにうつ伏せに並んだ遺骨・・・腕が骨折、突き刺さった榴弾片、頭部吹き飛んだ無残な姿。戦争の悲惨さ、酷さを物語る衝撃的な光景。
壕からは他に5本の万年筆が回収。万年筆は、嘉手納に本店のあった「渡口万年筆」のものが含まれていた。



壕内からみつかった万年筆



幸地内の壕を視察する町議員団

年表と写真で振り返る
西原町

平成22年→令和4年

2010-22

2011年には東日本大震災が発生。日本が大きく変化を求められる時代がスタートした。

2013年、普天間飛行場の県内移設断念とオスプレイ配備撤回を求め、歴史的にもはじめての超党派による、38市町村長と41市町村議会議長、29人の県議が「建白書」を携え東京行動を実施した。一方、2019年火災により首里城正殿、南殿、北殿焼失し、県民に大きな衝撃と喪失感をもたらした。

- 西原中学校創立50周年記念式典(2/21)
- 町中央公民館創立30周年記念公民館まつり(3/14)
- 町役場は、地方分権の進展に伴い組織・構成の見直しを行い、部制を導入。(4/1)
- 棚原、上原地区で4公園が開園(5/30)
- 美ら島沖縄総体2010バスケットボール女子が町民体育館ほかで開催(～8/6)(7/29)

- 戦争体験証言集「平和への証言」を発刊(1月)
- 民主党の岡田克哉幹事長が字幸地にある沖縄戦の壕跡を視察(1/9)
- 内閣御殿が国の文化財の指定を正式に受ける(官報で告示)(2/7)
- 元プロ野球選手を講師に少年野球教室が東崎公園で開催(8/8)
- 東日本大震災の支援のため、義援金の募集を開始(8/20)
- 製糖記念小公園が完成(9/13)



内閣御殿



少年野球教室



サンエー西原シティで義援金募集



製糖記念小公園

2010

平成22年

世の中の動き

- 名護市長選で稲嶺進氏が当選(1/24)
- 普天間飛行場の早期閉鎖・返還と県外移設を求める4・25県民大会(4/25)
- 鳩山由紀夫首相が初来県し県内移設を明言(5/4)
- 伊波宜野湾市長と稲嶺名護市長が県内移設反対で共同声明(5/16)
- 鳩山首相退陣。菅直人氏が首相に就任し、日米合意の踏襲を明言(6/8)

2011

平成23年

世の中の動き

- 東日本大震災が発生(3/11) 東京電力福島第一原発事故(3/11)
- サッカーの女子ワールドカップ(W杯)ドイツ大会で、なでしこジャパン優勝(7/17)
- テレビ放送が地上デジタルテレビ放送に全面移行(7/24)

2012

平成24年

世の中の動き

- 沖縄本土復帰40周年(5/15)
- 普天間基地へのオスプレイ配備に反対する県民大会(9/9)
- 衆院選で自民圧勝、第二次安倍内閣発足(12/26)

- 第5回世界のニシハラランチの集いが開催(10/14)
- 西原町史第1巻「通史編」発刊(30年余にわたる町史編纂事業を終える)(11/1)
- 西原東小学校創立30周年記念式典(12/18)
- 町道小那覇マリンタウン線全面供用開始(12/2)



小那覇マリンタウン線開通式

- 大きな地震と津波の発生を想定した「西原町総合防災訓練」を実施(2/15)
- 西原・与那原にまたがるマリンタウンの町境に標識を設置(3/30)



西原町総合防災訓練の様子



古堅与那原町長、上間西原町長

- 西原町老人クラブ連合会40周年記念式典(7/13)
- 西原町長選挙 上間明氏無投票再選(第10代)(9/9)
- 「オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会」西原実行委員会を組織し多くの町民に参加を呼びかけた(10/22)
- 西原南小学校・南幼稚園創立20周年記念式典(12/16)



オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会

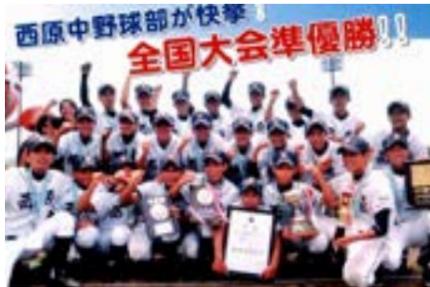
2013

平成25年

世の中の動き

- 4月28日、政府が「主権回復の日」として式典開催。沖縄では「屈辱の日」大会
- 2020年のオリンピックの開催地が東京に決定(9/8)
- 普天間飛行場にオスプレイ12機の追加配備完了。24機態勢となる(9/25)
- 仲井間知事が辺野古の埋め立て申請を承認(11/16)

- 県内41市町村の代表らが普天間飛行場の県内移設断念を求める「建白書」を首相に提出(1/28)
- 西原中学校野球部が全国大会準優勝。
- 地震、台風、洪水、土砂崩れなどの災害に備え、災害情報を住民などに伝える「防災行政無線」の整備事業が完了(7/9)
- 「広報にしはら」500号記念号を発行
- 「大型MICE施設マリンタウン地区誘致」住民大会開催(於 西原マリンパーク)(11/17)
- 西原小学校創立130周年・西原幼稚園創立65周年記念式典(12/15)
- (公社)西原町シルバー人材センター設立20周年記念式典(12/18)



西原中学校野球部が全国大会準優勝



「大型MICE施設マリンタウン地区誘致」住民大会開催

2014

平成26年

世の中の動き

- 名護市長選は新基地建設に反対する現職の稲嶺進氏を再選(1/19)
- 座間味、渡嘉敷両村の慶良間諸島を国立公園に指定(3/5)
- 消費税が5%から8%に引き上げ(4/1)
- 防衛省沖縄防衛局、名護市辺野古沖のボーリング調査を開始(8/18)
- 創業57年の歴史を持つ老舗百貨店、沖縄三越が閉店(9/21)
- 翁長雄志氏が、仲井真氏を破り県知事に当選(11/16)
- 衆院選は、沖縄の4選挙区で辺野古移設計画に反対する4候補が全勝(12/14)

- 比嘉春潮顕彰碑を町図書館に建立(2月)
- 西原町名誉町民顕彰式典で、故平良幸市氏と呉屋秀信氏に西原町名誉町民章を贈呈(2/7)
- 西原町非核反戦平和都市宣言の碑を役場敷地内に建立(2月)
- 西原町新庁舎落成式典(4/26)
- 西原町役場(字嘉手苧の旧庁舎)閉庁式(5/2)
- 西原町新庁舎開庁式・新庁舎での業務開始(5/7)



町立図書館入館者50万人達成



非核反戦平和都市宣言の碑



西原町新庁舎落成式典

2015

平成27年

世の中の動き

- 伊良部大橋(全長3540m)1/31開通
- イスラム国による日本人ジャーナリスト[後藤健二さん]殺害の報道(2/1)
- イオンライカム開業(4/25)
- 安倍首相とオバマ大統領が共同記者会見で辺野古移設を再確認(4/28)
- アメリカ海兵隊のMV22オスプレイが、ハワイで演習中に墜落、炎上(5/17)
- 戦後70年止めよう辺野古新基地建設 沖縄県民大会を開催(5/17)
- 具志堅用高さん(13連続王座防衛記録を持つ)、国際ボクシング殿堂入り(6/14)
- 「平和の礎」は太田県政時代の建立から20年を迎え、刻銘者総数は24万1336人になった(6/23)
- 入域観光客数は793万6300人。3年連続で過去最高を更新

- 1939年(昭和14)生まれの西原中学校7期生会が、それぞれの戦争体験を記した記念文庫「戦世を生き延びて」を刊行。
- さわふじ未来ホールこけら落とし月間(公演7/6 7/13 7/20)
- 琉球大学、町商工会、町の3団体が、「文教のまち西原」づくりに資することを目的に包括連携協定を締結。
- 西原高等学校創立40周年記念式典(11/15)



「戦世を生き延びて」を刊行



さわふじ未来ホールこけら落とし月間

- 文化財防火デー、内間御殿で東部消防組合、嘉手苧自治会参加で実施(1/26)
- 子どもしまくとぅば講座・うちなー芝居講座成果発表会(2/1)
- 県は大型MICE施設の建設地をマリンタウン東浜地区(与那原町、西原町)に決定(5/22)
- 旧西原村役場壕町史跡に指定(6/9)
- 与那原・西原町漁業協同組合西原支部主催による「タマン稚魚放流」を西原船だまりで実施(6/28)
- 西原町新渡戸菊・プロジェクト発足(7/17)
- サワフジの詩歌碑を町図書館に建立(7月)
- 西原町尚円王生誕600年記念事業
- ～尚円王とわがまち西原町～ シンポジウム(9/27)
- デービット・ユタカ・イゲ(ハワイ州知事)講演会・歓迎会(10/8)
- 第20回西原まつり(10/24)
- 西原町商工会設立40周年記念式典・祝賀会(11/13)



タマン稚魚放流



デービット・ユタカ・イゲ(ハワイ州知事)講演会・歓迎会

2016

平成28年

世の中の動き

- 沖縄本島に初の雪(名護市1/24)
- 米軍属事件(中部の女性を暴行、殺害、遺棄)に6万5千人抗議(6/19)
- 国際オリンピック委員会(IOC)は、東京五輪の追加種目で空手競技を承認(8月)
- 世界最古の釣針発見(南城市玉城前川のサキタリ洞遺跡 9/19)
- 「第6回世界のウチナーンチュ大会」開催(10/26~30)
- オスプレイ墜落(名護市安部の海岸12/13)
- 辺野古訴訟、県の敗訴が確定(12/20)

- 尚円王生誕600年記念事業 新作組踊「内間御鎖金丸」上演



新作組踊「内間御鎖金丸」上演

- ミュージカル「にじいろファクトリー」上演(3/26-27)
- 西原町まちづくり懇談会
- 平和演劇「海を越えた挑戦者たち」上演(7/30)
- 西原町長選挙・西原町議会議員補欠選挙(9/11)
- 第15回さわふじ青年エイサー(10/2)
- 第6回世界のニシハランチュの集い(10/28)
- さわりん、ゆるキャラグランプリ2016で、県内1位を獲得(11/6)

- ソデイカ(方言 セーイカ)の拠点産地として西原町と与那原町が県から認定(1/10)
- 沖縄キリスト教学院大学・同短期大学との包括連携協定締結式(3/8)
- 創作演劇「さわりん」と運玉義留」上演(3/11)
- 坂田小学校新校舎完成(3/31)
- 2013年(平成25)から橋梁老朽化のため、通行止めとなっていた「森川3号線」が開通(4月)
- 天然ガス井試掘開杭式(5/18)
- 沖縄森永乳業(株)との西原町事業協力包括協定締結式(6/15)
- 棚原酉年十二年まーる遊び、小波津七年まーる村遊び 幸地酉年十五夜あしび(10月)
- 上原棚原土地区画整理事業の竣工の記念碑を建立(11月)



森川3号線



上原棚原土地区画整理事業の竣工の記念碑

2018

平成30年

世の中の動き

- 名護市長選、渡具知武豊氏が当選(2/4)
- 渋滞緩和へ西海岸道路開通(3/18)
- 西日本豪雨は、14府県で計220人を超える死者(7月)
- 翁長雄志知事が死去(8/8)
- 玉城デニー氏が新知事に(9/30)
- J3のFC琉球が初優勝と来季のJ2昇格を決める(11/3)
- 山川穂高(埼玉西武ライオンズ)パ・リーグ本塁打王獲得。リーグMVPにも選ばれた
- ユネスコが宮古島のパントゥを無形文化遺産に登録(11/30)
- 辺野古埋め立て土砂投入(12/14)
- 組踊が1719年の初演から300年を迎えた

- 県立西原高等学校マーチングバンド町民栄誉授与式(1/9)

県立西原高等学校マーチングバンド町民栄誉授与

受賞理由として、4年に一度開催される世界音楽コンクールにおいて、三度目のベストインターナショナル賞を受賞する快挙を成し遂げ、西原町民に夢と希望、感動を与えとともに、本町の名声を全国に広めたことに対し、本町初の西原町民栄誉賞の授与が決定した。

- Vファーレン長崎サッカーキャンプ、東京ヴェルディサッカーキャンプ、カマタマーレ讃岐サッカーキャンプ



東京ヴェルディサッカーキャンプ(2月 西原町陸上競技場)

- 「沖縄ふるさと百選」小波津自治会認定(2/9)
- 読み聞かせサークル「パステル」文部大臣賞受賞(5/1)
- 「被ばくピアノ コンサート」をさわふじ未来ホールで開催(6/3)
- 「西原町平和音楽祭」が交流広場で開催(6/23)
- 西原南児童館開館(7/7)
- イオン琉球(株)との災害時における支援協力に関する協定書締結式(8/9)
- 西原町商工会青年部による熊本県西原村児童受入事業(8/20)
- ゆいレールの東海岸延伸に向けた西原町民総決起大会(9/19)
- 日清食品カップ全国小学生陸上競技交流大会 100m 五年生の部 平田瑛大(東小)が優勝(9/21)

2019

平成31年 令和元年

世の中の動き

- セブンイレブンが全国47都道府県で唯一店舗がなかった沖縄県に14店舗が同時に開店(7/17)
- 消費税率を8%から10%に引上げ(10/1)
- 沖縄都市モノレールは「石嶺駅」「経塚駅」「浦添前田駅」「たご浦西駅」の四駅の運行が始まった(10/1)
- 首里城で火災が発生し、正殿、南殿、北殿などの主要6棟が全焼、扁額など貴重な収蔵品も約400展が失われた。(10/31)

- ニシバル歴史の会「地域おこし功労」を受賞(2/8)
- 待機児童解消の向けて新しい認可保育園として「こぼとゆがふ保育園」が開所(4/1)
- さわりんお誕生日会開催(6/29)
- 西原町、中城村、北中城村、宜野湾市、北谷町の5市町村間で「災害時相互応援協定」を締結(8/29)
- 島尻青年会議所主催によるサンゴ植え付け体験がきらきらビーチで行われた(9/28)
- 町制施行40周年 第22回西原まつり開催(10/26)

2010-22

2020

令和2年

世の中の動き

- 沖縄で33年ぶり豚コレラ(1/8)
- 沖縄で新型コロナウイルス感染者を初確認(2/14)

- 被爆ピアノコンサートIN西原(1/15)



被爆ピアノコンサートIN西原(さわふじ未来ホール)

- 第12代西原町長に崎原盛秀氏(9/15)
- 山城美枝(字小波津)さんが「りゅうぎん紅型」大賞を受賞(10/15)
- 戦後75周年記念として戦火を耐えた樹齢約200年の「フクギ」「艦砲(かんぽう)ぬ喰(く)え残(ぬく)さー」の案内板除幕式(10/30)
- 西原町観光まちづくり協会設立(11/26)
- さわふじマルシェOPEN(12/12)



さわふじマルシェOPEN

- 被爆ピアノ演奏会が西原の塔内にある被爆アオギリ2世の前で開催される(1/15)
- 被爆ピアノコンサートIN西原(1/15)
- 新型コロナウイルスワクチン接種始まる(3/22)
- 町観光キャラクター「さわりん」をモチーフにした風景印(消印)が町内3郵便局で作成される(7/1)



被爆ピアノ演奏会

2021

令和3年

世の中の動き

- 東京2020オリンピック県内各地で聖火リレー実施(5/1)
- 奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島がの世界自然遺産に登録(7/26)
- 東京五輪金メダルを獲得した空手形喜友名諒、野球代表の平良海馬、銅メダルのレスリング屋比久翔平選手に沖縄県民栄誉賞(9/15)
- 海底火山に由来するとみられる大量の軽石の県内各地への漂流・漂着を確認(10/8)

2022

令和4年

世の中の動き

- 復帰50年 県内と東京で「沖縄復帰50周年記念式典」が開催(5/15)
- 首里城再建へ起工式(11/3)
- 「第7回世界のウチナーンチュ大会」が開催(10/30~)

- 小波津・与那城橋開通(10/10)



小波津・与那城橋開通式

- 西原さわふじマルシェ内の西原劇場内に小波津区から旗頭が寄贈された(12/10)

- 「広報にしはら」600号(2/1)
- 平和の願いを永久に 月桃の歌碑建立(6/22)



月桃の歌碑(西原町運動公園内)

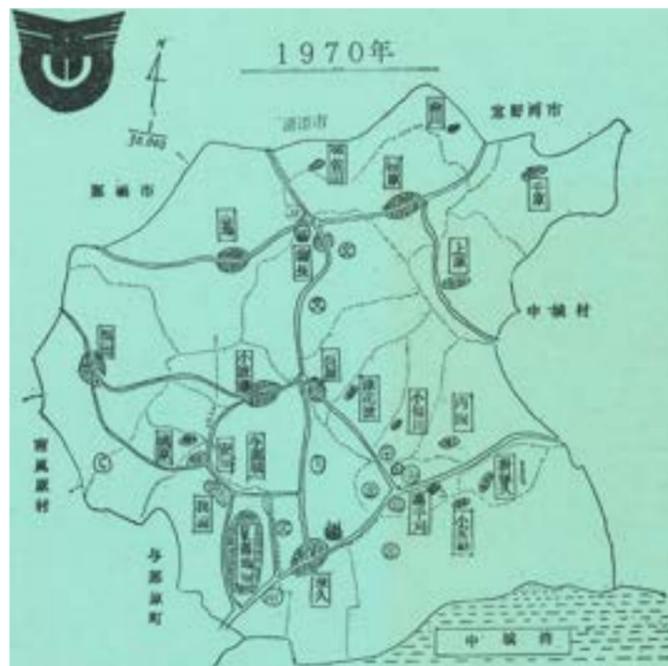
- 第19回世界音楽コンクールに出場し、チャンピオンシップのショー部門で、西原高校マーチングバンド部が世界一に輝く(8/18)

各行政区の経緯

村落(行政区)の変遷

西原村(町)の行政区は、1932年(昭和7)に24字制となり、1953年(昭和28)7月24字制を改め6区制を採用。しかし、伝達等の不便さから翌年24字制に戻した。その後人口増加などの問題があり、1977年(昭和52)9月1日24字制から16行政区に改める。さらに振興住宅団地の建設により、1984年(昭和59)4月1日16行政区を18行政区に改編。新行政区に西原ハイツ(17区)、県営内間団地(18区)。1985年(昭和60)7月1日18行政区を19行政区に改編。新行政区に県営西原団地(19区)。

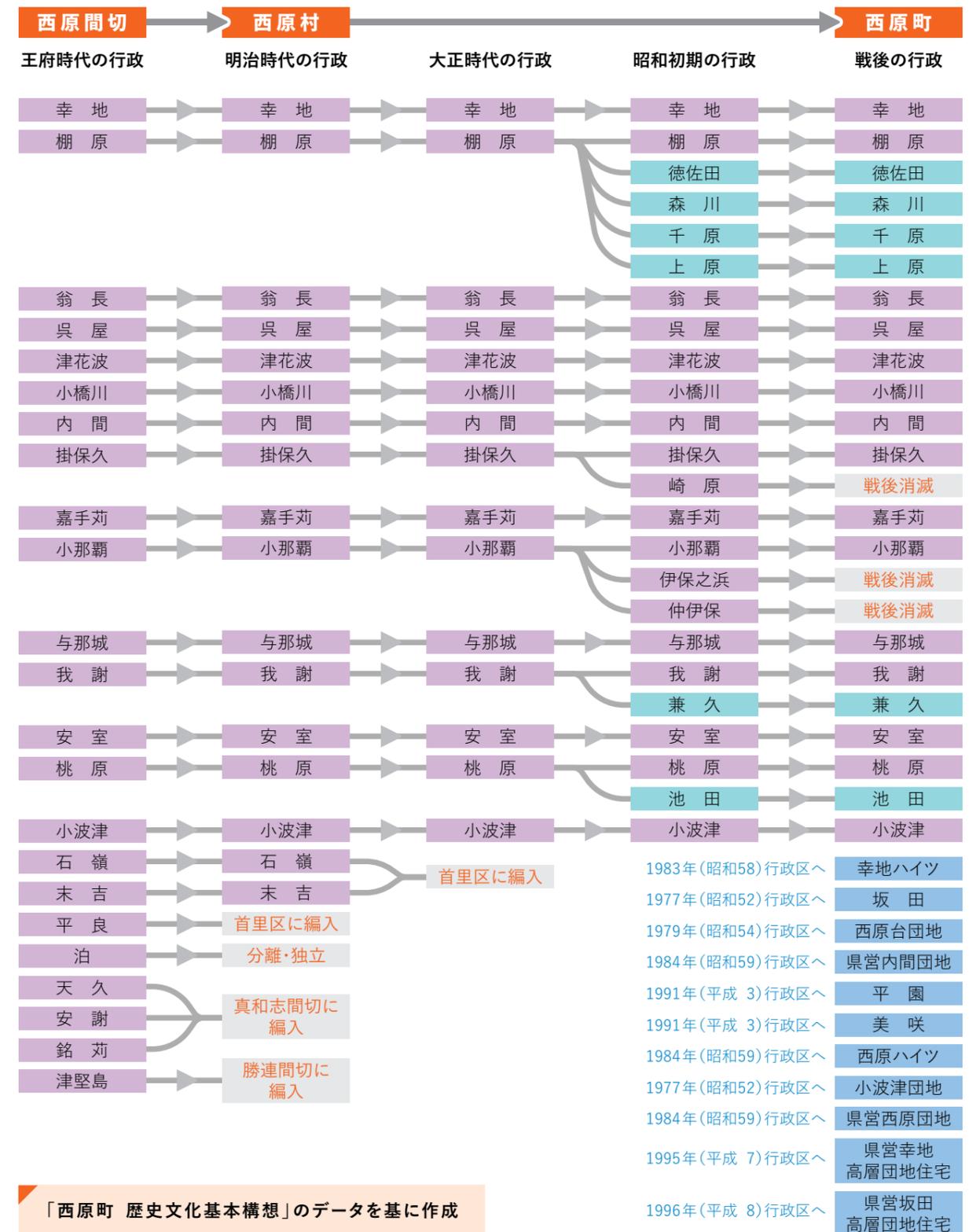
1991年(平成3)4月1日、1977年(昭和52)に改編されて以来、人口増大、生活様式の変化、価値観の多様性等により地域自治体活動の停滞など問題が発生。このような問題に対処するために大字を単位として振興の住宅地域、及び100世帯以上の集合する地域を1行政として19行政区から30行政区へ移行。1995年(平成7)4月1日30行政区を31行政区に改編。新行政区に県営幸地高層住宅(31区)。1996年(平成8)4月1日31行政区を32行政区に改編。新行政区に県営坂田高層住宅(32区)。現在まで32行政区となっている。



西原村勢要覧(1970年(昭和45)資料提供 玉那覇三郎)

村落変遷図

凡例 古村落 屋取集落 新興住宅・団地



幸地

本町の西部に位置し、三方（北、東、南）とも小高い丘に囲まれ、各家屋は南向きに整然と立地している。

主な年中行事として、綱引き、村芝居などが行われている。

集落の東南の丘陵に幸地グスク、南側の小高い丘にククジムイ（刻時森）がある。

代表的な姓は、与那嶺、翁長、外間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	541	531	1,072	198
1982年（昭和57）	960	893	1,853	452
1992年（平成4）	690	619	1,309	375
2003年（平成15）	808	751	1,559	524
2013年（平成25）	857	787	1,644	618
2021年（令和3）	906	893	1,799	724



十五夜あしび 獅子の拌み
(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



十五夜あしび 地謡
(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



幸地区 十五夜あしび (1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



幸地畜産共進会 (1977年(昭和52)12月14日)



十五夜あしび 観衆 (1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



郷里訪問 (1989年(平成元) 資料提供 幸地自治会)



幸地自治会 いいあんべー事業 (2003年(平成15))



幸地自治会 地域懇談会 (2003年(平成15))

【行政区】

幸地ハイツ

幸地ハイツは当初、幸地11班であったが1979年(昭和54年)に自治会が発足し、その後1983年(昭和58)の行政区指定を受け独立行政区となる。

県内各地からの移住者の集合体であり、高齢化率の高い地域である。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	378	382	760	231
2003年(平成15)	168	166	334	112
2013年(平成25)	153	161	314	120
2021年(令和3)	146	138	284	122



市町村合併 地域説明会(2003年(平成15))



親子自然体験宿泊研修(2013年(平成25))

【行政区】

棚原

本町の北部台地に立地し、各家屋は南傾斜面に棚状にある。

17世紀末から18世紀初頭の時期に浦添間切から西原間切に編入された。

昭和初期、屋取であった徳佐田、森川、千原、上原行政上独立した。

主な年中行事として、ウファチジナ、村芝などが行われている。

集落の北北西に棚原グスク、棚原貝塚がある。

代表的な姓は、比嘉、宮里、城間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	295	322	617	135
1982年(昭和57)	369	398	767	195
1992年(平成4)	700	662	1,362	485
2003年(平成15)	1,126	1,116	2,242	854
2013年(平成25)	1,298	1,261	2,559	1,055
2021年(令和3)	1,394	1,319	2,713	1,269



棚原 酉年12年まーるあしび(1950年代 資料提供 棚原自治会)



棚原婦人会南部観光記念 1964.7.3

棚原婦人会南部観光記念 (1964年(昭和39) 資料提供 比嘉昂)



ウマリトイタティ (1990年(平成2) 資料提供 屋良勝彦)



棚原旧宮里家のウーフル (1978年(昭和53)1月)



綱引き (1983年(昭和58) 資料提供 棚原自治会)



棚原婦人会 第一回西原まつり出演
(1978年(昭和53)12月 資料提供 比嘉昂)



棚原酉年12年まーるあしび (1993年(平成5))



【行政区】

徳佐田

本町の北部に位置し浦添市西原と前田に隣接する。

昭和54年からは西原町の字。もとは西原村棚原の一部。首里士族と棚原から分出した人々が形成した屋取であった。

昭和62年、集落の西側に沖縄自動車道が開通し、平成19年、西原西地区土地区画整理事業施工などで集落の景観も一変した。

代表的な姓は、安座間、佐久田。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	71	65	136	25
1982年（昭和57）	81	85	166	37
1992年（平成4）	173	159	332	101
2003年（平成15）	186	180	366	126
2013年（平成25）	160	150	310	129
2021年（令和3）	132	132	264	133



徳佐田の風景（1976年（昭和51）資料提供 屋良勝彦）



1998年（平成10）3月、全島縦断駅伝（辺戸岬～徳佐田）を実施

【行政区】

森川

本町の北部に位置し、北川は宜野湾市我如古、西側は浦添市西原に隣接する。

もとは西原村棚原の一部。住民の大部分は、明治12年廃藩置県以前に首里から移住した士族である。ほとんどが農家。サトウキビ・サツマイモを栽培し、養豚業を営み、共同の製糖小屋が3か所あった。

西側製糖小屋の広場では、村芝居やエイサーが行われた。

代表的な姓は、棚原、許田。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	84	69	153	31
1982年（昭和57）	102	67	169	52
1992年（平成4）	188	121	309	137
2003年（平成15）	240	214	454	214
2013年（平成25）	258	231	489	243
2021年（令和3）	290	233	523	287



旧森川公民館



2008年（平成20）3月、宝くじ助成金を活用し、長年の課題であった「森川コミュニティセンター」が完成

【行政区】

千原

本町の最北端に位置する。

雍正11年(1733)棚原山地に王府の茶園が開かれたが(球陽尚敬王21年条)、その地が千原と考えられる。当時は杣山番人が配置され、管理していた。昭和7年頃棚原から行政字として独立。当時の戸数は40ほどで茶園を中心に散在した。砂糖製造所や馬場があり、小集落であったが活気を呈していた。しかし沖縄戦で多数の住民が戦災にあい、一家が全滅した例もあった。戦後、住民はペルーへ移民したり、那覇・宜野湾などへ移り住み、15戸ほどが千原に残った。その少数の世帯も、千原が昭和40年代になって琉球大学の移転先に決定したのに伴い、集落の北端への移動を余儀なくされた。

代表的な姓は、普天間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	33	24	57	11
1982年(昭和57)	45	180	225	172
1992年(平成4)	580	237	817	732
2003年(平成15)	629	264	893	797
2013年(平成25)	658	411	1,069	906
2021年(令和3)	555	331	886	745

行政区の出来事

- 2019年(令和元)4月、「第7回中部広域花と緑のまちづくりコンクール」において、美化・緑化が認められ優秀賞を受賞



生活の様子(1976年(昭和51) 資料提供 屋良勝彦)

【行政区】

上原

本町の北東部の丘陵地に立地し、中城湾が一望できる。

もとは西原村棚原の一部。伝承によれば、18世紀初期、首里の嘉味田殿内から屋良家が移り住んだのが始まりであるが、上原の住民は、明治12年の廃藩置県前後に首里から移り住んだ人が大部分である。一帯は杣山と呼ばれる官有林地で、首里士族が屋取を形成していた頃は、地元の農民を使役して茶の栽培を行った。昭和7年行政字となる。

琉球大学の移転、医学部と同付属病院の新設などにより道路網も整備され集落の景観も一変した。

代表的な姓は、屋良、喜納。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	172	153	325	57
1982年(昭和57)	200	159	359	84
1992年(平成4)	485	488	973	258
2003年(平成15)	1,378	1,332	2,710	1,083
2013年(平成25)	1,752	1,745	3,497	1,419
2021年(令和3)	2,083	2,075	4,158	1,815



盆踊り(1980年代 資料提供 上原自治会)



子ども会活動(1980年代 資料提供 上原自治会)



上原子ども会 餅つき大会 (2007年(平成19) 資料提供 上原自治会)



2005年(平成17)3月、コミュニティーセンターが完成 (資料提供 上原自治会)



上原自治会 老人会ピクニック (2003年(平成15) 資料提供 上原自治会)

【行政区】

翁長

本町のほぼ中央に位置する。

琉球王府時代には翁長に番所が置かれ、西原の政治の中心地であった。

戦前、村役場、駐在所、西原国民学校、村馬場などがあった。

戦後、旧役場の敷地に「西原村慰霊之塔」が建立された。1959年(昭和34)、西原国民学校跡地に坂田中学校と西原中学校が統合され「西原中学校」が創立された。

主な年中行事として、ヨンシーがある。

代表的な姓は、仲宗根、城間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	430	409	839	175
1982年(昭和57)	1,108	1,128	2,236	530
1992年(平成4)	1,250	1,240	2,490	733
2003年(平成15)	1,511	1,501	3,012	1,043
2013年(平成25)	1,676	1,701	3,377	1,223
2021年(令和3)	1,707	1,743	3,450	1,386



勤住協住宅の造成工事 (1973年(昭和48) 資料提供 玉那覇三郎)



翁長のヨンシー (1981年(昭和56) 資料提供 屋良勝彦)



第25回村民体育大会6区総合優勝 (1978(昭和53)年10月)



翁長公民館 (1978(昭和53)年3月29日撮影)

【行政区】

坂田

1969年(昭和44)にRBC開発株式会社が「海が見え、見はらしがすばらしい高台に快適な住まいを」と、1970年(昭和45年)緩やかな傾斜をそのまま利用しヒナ段造成が行われた。

1977年(昭和52)に行政区となった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	579	631	1,210	322
2003年(平成15)	558	584	1,142	356
2013年(平成25)	543	546	1,089	404
2021年(令和3)	463	477	940	387



坂田自治会遠景 (1970年代)



2004年(平成16)10月、坂田青年会



2007年(平成19)3月、坂田自治会創立30周年記念式典



2018年(平成30)6月、集中豪雨による土砂災害を想定した防災訓練が行われた

【行政区】

呉屋

西原平野をとりまく丘陵地帯の北麓に位置する。

1965年(昭和40)、部落前のキビ畑に町内で最初の本格的な教会が建った。主な年中行事として、綱引、エイサー、村芝居が行われていたが、エイサーが1943年(昭和18)、村芝居が1934年(昭和9)を最後に行われていない。

字有地である呉屋森は、西原中学校の教材植物園に指定されていた。代表的な姓は、呉屋。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	128	117	245	60
1982年(昭和57)	219	213	432	106
1992年(平成4)	217	217	434	132
2003年(平成15)	229	215	444	159
2013年(平成25)	284	265	549	203
2021年(令和3)	311	31	342	231



旧公民館



呉屋区の綱引(2017年(平成29))

【行政区】

津花波

中城湾に注ぐ小波津川と内間川との間にある丘陵地の麓に位置する。
 戦前模範的な字として県農会から何回となく表彰され、村の原山勝負でも毎回優勝している。
 主な年中行事として、綱引、戦前まではエイサーも行われていた。
 代表的な姓は、与儀、与那嶺。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	140	110	250	50
1982年（昭和57）	268	227	495	128
1992年（平成4）	219	207	426	112
2003年（平成15）	240	218	458	142
2013年（平成25）	255	220	475	163
2021年（令和3）	248	237	485	189



西原町風景（1971年（昭和46））



津花波が青年会結成で駅伝（1994年（平成6））



津花波区の綱引（2017年（平成29））

【行政区】

西原台団地

1972年(昭和47)頃から宅地造成が進められ、字小橋川と字津花波にまたがる85世帯を擁する振興住宅地域である。その内訳は字小橋川51世帯、字津花波34世帯である。自治会は1979年(昭和54)10月に結成される。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	243	239	482	128
2003年(平成15)	233	241	474	150
2013年(平成25)	224	214	438	164
2021年(令和3)	211	199	410	181



2014年(平成26)「宝くじ社会貢献広報事業」の助成を受けて災害対策用備品の整備を行った。
西原台団地自治会は本町で初めて結成された自主防災組織



西原台団地子ども会(2003年(平成15))

【行政区】

小橋川

中城湾に注ぐ内間川上流域の南西側丘陵地に位置する。

1914年(大正3)大城式甘蔗圧搾玉車を発明し、沖縄県の基幹産業である糖業に大きく貢献した「大城助素」の出身地である。

主な年中行事として、綱引、獅子舞が行われている。村芝居は1931年(昭和6)を最後に行われていない。

代表的な姓は、大城、大嶺。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	126	138	264	51
1982年(昭和57)	318	326	644	167
1992年(平成4)	373	369	742	197
2003年(平成15)	472	478	950	296
2013年(平成25)	509	528	1,037	348
2021年(令和3)	545	547	1,092	418



2004年(平成16)2月、沖縄戦で犠牲となった小橋川区民の名を刻銘した小橋川部落戦没者刻銘碑を建立
(1995年(平成7) 資料提供 小橋川自治会)



公民館解体作業
(1995年(平成7) 資料提供 小橋川自治会)



公民館落成式
(1995年(平成7) 資料提供 小橋川自治会)



小橋川殿内拝所移転祈願
(1991年(平成3) 資料提供 小橋川自治会)



旗頭作り (1994年(平成6) 資料提供 小橋川自治会)



綱作り (2018年(平成30) 資料提供 小橋川自治会)



子どもエイサー (2018年(平成30) 資料提供 小橋川自治会)

【行政区】

内間

肥沃な西原平野の北東部を流れる内間川中流域に位置する。集落は与那原方面を見下ろす南傾斜地に立地。

集落の背後の集落発祥地にカヤブチ御殿がある。

主な年中行事として、綱引、エイサーが行われている。村芝居は大正初期頃を最後に行われていない。

代表的な姓は、大城、新川。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	152	151	303	64
1982年(昭和57)	164	165	329	87
1992年(平成4)	220	217	437	116
2003年(平成15)	241	249	490	159
2013年(平成25)	237	255	492	170
2021年(令和3)	215	234	449	183

行政区の出来事

- 1989年(平成元)9月17日、1952年(昭和27)に製作された内間獅子、37年ぶり復活
- 1985年(昭和60)3月、公民館、野呂殿内、カヤブチ御殿、内間御殿小の整備終わる
- 1978年(昭和53)5月、内間青年会が屋我地-西原を縦断駅伝
- 1996年(平成8)5月、内間青年会が15年ぶりに本島縦断駅伝を開催。辺戸岬-西原町



西原まつりでの旗頭 乱舞 (2005年(平成17))



内間区綱引 (2018年(平成30))



内間青年会本島縦断駅伝 (1977年(昭和52))

西原-屋我地間約75.8キロを24人のランナーで31区間に分けて、約5時間45分で走破(1996年(平成8))



【行政区】

県営内間団地

沖縄県が1982年(昭和57)から造成をはじめ、翌年から入居が始まる。鉄筋コンクリート5階建11棟という大規模な団地である。

1984年(昭和59)4月1日行政区となった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	490	525	1,015	238
2003年(平成15)	401	455	856	253
2013年(平成25)	324	388	712	248
2021年(令和3)	298	348	646	241

行政区の出来事

- 1898年(平成元)6月、消火訓練で防火意識を図る
- 2007年(平成19)3月、内間団地いいあんべー事業参加者10人が、西原東小学校の1、2年生と給食交流会を行った



内間団地エイサー (2006年(平成17))



内間団地親子駅伝(2001年(平成13) 資料提供 内間団地自治会)

【行政区】

掛保久

西原平野の北東部の微高地に立地する。北側はかつて崎原屋取に、西側は内間集落に南側は嘉手苧集落に隣接。

昭和7年屋取の崎原が行政区として独立したため、本集落は30～40、人口200にとどまり、以後変動はなかった。

第2次大戦直後、海外から40世帯ほどの引揚者があった。また崎原は米軍基地に接收され、住民は与那城・我謝にまたがる県立糖業試験場跡地に移動を命じられた。

代表的な姓は、玉城、城間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	76	77	153	35
1982年（昭和57）	126	142	268	61
1992年（平成4）	162	166	328	85
2003年（平成15）	194	202	396	112
2013年（平成25）	213	264	477	219
2021年（令和3）	257	326	583	255



2003年（平成15）8月、市町村合併に関する地域説明会

【行政区】

嘉手苧

中城湾に注ぐ小波津川と内間川に挟まれた西原平野東部に位置する。集落の中央部に尚円王ゆかりの内間御殿（国指定史跡 2011年（平成23）2月7日）があり、周囲にはフギの大木が繁茂し、石垣遺構も残っている、緑の多い場所である。

昭和11年4月那覇市の開南に私立開南中学校（第2次大戦により廃校）を創設したうちの1人である中谷（旧姓嘉手苧）善英の出身地である。

主な年中行事として、綱引が行われている。

代表的な姓は、嘉手苧、中山。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	159	123	282	63
1982年（昭和57）	254	217	471	125
1992年（平成4）	206	214	420	119
2003年（平成15）	213	201	414	142
2013年（平成25）	231	229	460	179
2021年（令和3）	220	212	432	170

行政区の出来事

- 1992年（平成4）1月、青年会主催で地域づくり、島おこしを図るため新春本島縦断駅伝を実施。辺戸岬-嘉手苧公民館



大綱曳（2001年（平成13）資料提供 嘉手苧自治会）



大網曳 拝み (2001年(平成13) 資料提供 嘉手苺自治会)



大網曳 (2001年(平成13) 資料提供 嘉手苺自治会)



コスモス畑 (2017年(平成29) 資料提供 嘉手苺自治会)

【行政区】

小那覇

西原平野の東部に立地する大きな集落。

1944年(昭和19)、日本軍に約15万立方が強制接收され飛行場建設が始められた。しかし完成しないまま終戦を迎えた。戦後米軍に接收されたが、1959年(昭和34)4月に返還された。

小那覇は、西原でも米の名産地であったため、稲作に関する豊作祈願の年中行事の綱引が行われている。

「梅の香り」作者 新川嘉徳の出身地。「梅の香り 歌碑建立実行委員会」を立ち上げ2001年(平成13)歌碑建立。それを機に2002年(平成14)「梅の香り」うた遊び大会が開催されている。

代表的な姓は、新川、玉那覇。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	420	442	862	188
1982年(昭和57)	709	697	1,406	391
1992年(平成4)	917	944	1,861	556
2003年(平成15)	1,073	1,119	2,192	727
2013年(平成25)	1,033	1,082	2,115	746
2021年(令和3)	1,144	1,154	2,298	922

行政区の出来事

- 1993年(平成5)7月、西原東中学校グラウンドで第1回うなふぁんちゅ運動会を開催
- 1995年(平成7)9月、1941年(昭和16)頃から途絶えていた「村あしび」が54年ぶりに復活
- 2007年(平成19)9月、十五夜あしびで、組踊「手水の縁」が66年ぶりに上演



戦前の綱引き (1937年(昭和12) 資料提供 西原町教育委員会)



西原町小那覇大綱曳 (1994年(平成6) 資料提供 小那覇自治会)



十五夜村あしび (1995年(平成7) 資料提供 小那覇自治会)



梅の香り歌碑 建立地鎮祭 (2000年(平成12) 資料提供 小那覇自治会)



梅の香りうた遊び大会 (2011年(平成23) 資料提供 小那覇自治会)



西原村陸上競技大会 (1957年(昭和32) 資料提供 小那覇自治会)

与那城地番の通称「新部落」を主体とした行政区で、1991年（平成3）4月に新行政区改編により誕生した行政区。

戦後間もなく米軍が軍用物資の資材置き場として利用していたが、1948年（昭和23）前後に開放されて、崎原、伊保之浜、仲伊保の出身者が次々と住宅を構え集落ができていった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）				
1982年（昭和57）				
1992年（平成4）	624	610	1,234	339
2003年（平成15）	873	872	1,745	534
2013年（平成25）	856	860	1,716	594
2021年（令和3）	813	813	1,626	653

行政区の出来事

- 1993年（平成5）10月、第1回平園まつり開催
- 1996年（平成8）1月、第12回新春トリムマラソンが区民40人が参加し行われた
- 1997年（平成9）10月、第3回平園まつり開催
- 2000年（平成12）1月、新春トリムマラソンと餅つき大会を開催
- 2019年（令和元）3月、巨大地震等を想定して防災訓練を実施
- 2017年（平成29）3月、宝くじ助成金を活用し、AEDや救助用ロープなど防災資機材を整備した
- 2016年（平成28）3月、アルファ米を使った炊き出し訓練、避難訓練を実施



もちつき大会（2003年（平成15））



国道329を挟んで左側・平園区（1973年（昭和48）頃）



防災訓練（2019年（令和元））

本町の南東部に位置する。

かつては我謝又下と呼ばれ、我謝村の屋取であった。当時2～5戸ほどの農家があったが、明治41年糖業改良事務局の製糖工場が設立されると、各地から人々が流入し、人口が急増した。現在の宅地は、ほとんどが製糖工場跡(兼久1番地)、工場跡地兼久100番地)に立地する。兼久は「会社又前」とよばれていた。

戦後、兼久は字与那城にあった村役所の入り口にもあたるため、西原で唯一の映画館や食堂、写真館、銭湯などがあり賑やかな商店街を形成していた。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	447	455	902	201
1982年(昭和57)	636	637	1,273	339
1992年(平成4)	951	919	1,870	548
2003年(平成15)	1,129	1,106	2,235	736
2013年(平成25)	1,295	1,267	2,562	915
2021年(令和3)	1,315	1,305	2,620	1,055

行政区の出来事

- 1996年(平成8)、第1回本島縦断駅伝大会を開催。辺戸岬-兼久(11月17日)
- 「平成10年兼久新春ウォーキング・マラソン大会」を開催(1月)
- 2000年(平成12)12月、自治会の活性化と2000年を記念し大晦日から元旦にかけて「20時間ウォーキングマラソン駅伝大会」を区民約200人で開催。
- 2019年(令和元)5月、兼久公民館の建替え資金造成イベント「大人の落語会&フォークソング」が開催
- 2018年(平成30)3月、高潮や津波を想定した防災訓練を実施(東崎自治会)



再渡航記念(1967年(昭和42) 資料提供 呉屋寛文)



兼久同志会(1970年(昭和45) 資料提供 呉屋寛文)



西原食堂(1964年(昭和39)頃 資料提供 呉屋寛文)



兼久婦人会 ピクニック記念(1965年(昭和40) 資料提供 呉屋寛文)



兼久青年会エイサー(2007年(平成19))

西原平野の中央部を東西に貫流する小波津川の南側に立地する。

西原村でも有数の移民の多い字である。明治末期に戸数76であったが、昭和10年頃には移民ブームのため海外へ渡る者が多く、当時の住民は半数以下の37戸にまで減少したという。

戦後、村役所や小学校、村農協などが置かれ西原の中心地として発展した。

1968年(昭和43)町役所が嘉手苺に移転後も、せんつる団地(1973年(昭和48)、町中央公民館1978年(昭和53))など建設された。

現町役場は、2014年(平成26)嘉手苺から与那城に移転してきた。

代表的な姓は、宮平、小橋川。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	420	552	571	250
1982年(昭和57)	890	832	1,722	432
1992年(平成4)	694	716	1,410	402
2003年(平成15)	793	760	1,553	501
2013年(平成25)	771	777	1,548	556
2021年(令和3)	756	745	1,501	580

行政区の出来事

- 1989年(平成元)12月、児童生徒、青年、一般、婦人が38人参加し、辺戸岬-与那城事務所間110キロを走破
- 1997年(平成9)6月、一般家庭から出される”資源ゴミ”をリサイクルして地域の活性化を図ろうという意識啓発のため「親睦グラウンドゴルフ大会」を西原小グラウンドで開催。



与那城区本島縦断駅伝(1989年(平成元))



三津武嶽の拌み(1994年(平成6) 資料提供 屋良勝彦)



西原村民陸上競技大会(1976年(昭和51) 資料提供 与那城自治会)

【行政区】

美咲

我謝旧試験場を主体に兼久の一部からなる。戦後その跡地に崎原、伊保之浜、仲伊保の出身者が1947年(昭和22)ごろ次々と住宅を構え集落ができていった。地番のほとんどが我謝241番地で「試験場地」ともよばれていた。

「美咲区」の名称は、1991年(平成3)公募により決定した。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	443	411	854	339
2003年(平成15)	479	519	998	328
2013年(平成25)	514	525	1,039	379
2021年(令和3)	479	442	921	380

行政区の出来事

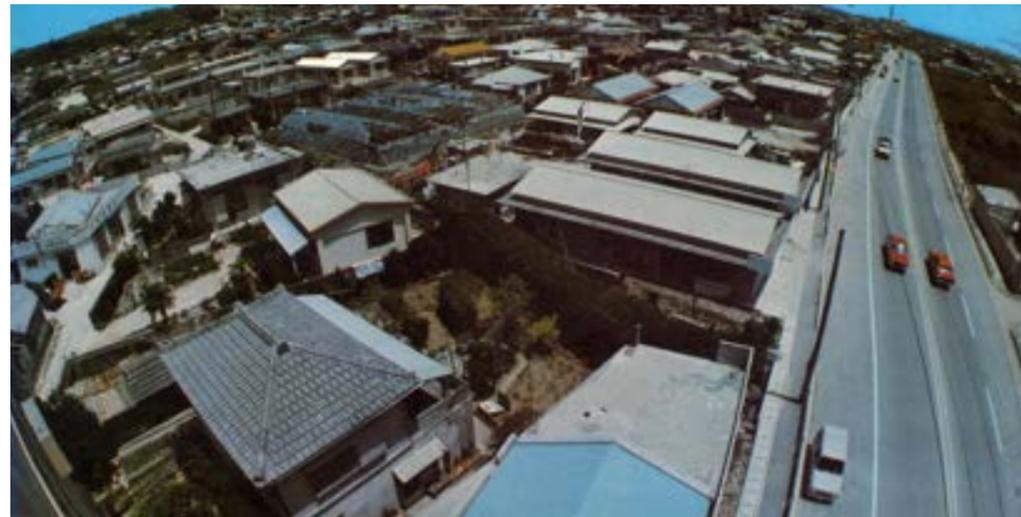
- 2001年(平成13)3月、区民交流親睦囲碁大会を開催
- 2007年(平成19)1月、宝くじ助成金を活用し野外放送設備を整備した



美咲区 文化祭(2000年(平成12))



もちつき大会(2007年(平成19))



美咲区(1973年(昭和48)撮影)

【行政区】

我謝

本町南端の運玉森のふもとに位置し、南側は与那原町に隣接する。

一時期各地に分散収容されていた西原村民が1946年(昭和21)、我謝区のみに住居許可があり戦後復興が始まった。その後各集落への住居許可があり元集落へ移転するようになった。

海外への移民の多い字としても知られ、世帯の3分の2以上が移民に関係しているといわれる。行先は、ハワイ・ペルーが特に多く、ブラジルやアルゼンチンなどへの移民も見られる。

我謝を代表する年中行事は綱引で、町内外にも知れ渡り人気がある。

代表的な姓は、平良、玉那覇、宮平、小橋川、新垣、城間。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	894	924	1,818	399
1982年(昭和57)	1,174	1,205	2,379	621
1992年(平成4)	990	1,002	1,992	568
2003年(平成15)	1,097	1,089	2,186	723
2013年(平成25)	1,153	11,231	12,384	813
2021年(令和3)	1,099	1,098	2,197	925

行政区の出来事

- 1990年(平成2)10月、第6回我謝区民運動会を西原小学校で開催。区民約800人が参加した。
- 2008年(平成20)10月、「我謝15夜村あしび」我謝児童公園で開催。1951年(昭和26)以来、57年ぶりに「久志の若按司」が上演された。
- 2018年(平成30)7月、退職教員の協力を得て、夏休み学習会を開催



我謝大綱引(下割)(1971年(昭和46) 資料提供 我謝自治会)



我謝大綱引 (1988年(昭和63) 資料提供 屋良勝彦)



57年ぶりの上演 我謝十五夜あしび (2008年(平成20) 資料提供 我謝自治会)



西原町陸上競技大会（1966年（昭和41）資料提供 我謝自治会）



我謝生年合同祝（1977年（昭和52））



我謝児童公園開園式（1978年（昭和53））

【行政区】

西原ハイツ

1984年（昭和59）4月1日行政区となる。1971年（昭和46）ごろ中城湾の石油関連産業の開発にともない、石油関連会社が外国人従業員用の住宅として開発していた地区で、与那城森一帯から我謝森にかけて、1981年（昭和56）より民間企業によって宅地造成され、翌年から入居が始まった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）				
1982年（昭和57）				
1992年（平成 4）	257	282	539	136
2003年（平成15）	245	278	523	154
2013年（平成25）	244	267	511	177
2021年（令和 3）	210	238	448	176

行政区の出来事

- 2012年（平成24）、コミュニティ助成事業を受け野外放送設備を整備。
- 2015年（平成27）3月、西原ハイツ自治会結成30周年記念式典と祝賀会を開催



1994年（平成6）、結成10周年記念式典・祝賀会開催（7/9）



現役場辺りからの遠景
（1972年（昭和47）資料提供 玉那覇三郎）



第3回西原さわふじエイサー祭り
（2004年（平成16））

安室

運玉森北側斜面のふもとに位置する。

昔から隣接する桃原とともに「安室、桃原島隣い」と併称されている。

かつて、安室集落でも五穀豊穡を祈願して綱引や8月アシビなどの年中行事が行われていたが現在は行われていない。

1965年(昭和40)、運玉森に沖縄カントリークラブがオープンしたため地元からキャディなどに従事する人が出るようになった。

代表的な姓は、与那城、城間、宮平、喜屋武。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	92	83	175	41
1982年(昭和57)	133	127	260	64
1992年(平成4)	170	151	321	77
2003年(平成15)	195	181	376	105
2013年(平成25)	185	188	373	125
2021年(令和3)	199	199	398	147

行政区の出来事

- 1983年(昭和58)8月、安室自治公民館が完成。
- 2005年(平成17)9月、コミュニティ助成事業を活用し、屋内外放送設備を整備。



市町村合併地域説明会(2004年(平成16))



公民館落成30周年式典(2014年(平成26))

桃原

運玉森北側のふもとに位置する。トウバルとは「平坦な場所」の意。

桃原は沖縄戦において、運玉森を中心に日米両軍が1か月余りにわたって争奪戦を繰り返したところで、住民からも多くの犠牲者が出た。

稲作中心の集落で、昭和初期まで8月アシビは行われていた。現在、獅子舞が継承されている。

代表的な姓は、喜屋武、安谷屋。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)	77	67	144	31
1982年(昭和57)	87	72	159	31
1992年(平成4)	96	87	183	49
2003年(平成15)	110	102	212	59
2013年(平成25)	124	127	251	79
2021年(令和3)	143	140	283	107

行政区の出来事

- 1992年(平成4)5月、桃原構造改善センターが完成。
- 1993年(平成5)6月、桃原に古くから伝わる獅子舞が33年ぶりに復活。
- 2003年(平成15)7月、コミュニティ助成事業を活用し、テニスコートを整備。



桃原構造改善センター落成式(1992年(平成4))



旧事務所解体の様子（2001年（平成13））



旧事務所落成寄付者名簿（1961年（昭和36））



喜屋武 大城氏郷土訪問 宮平2氏ブラジル移住の記念写真



33年ぶりに復活した獅子（1993年（平成5））

【行政区】

池田

小波津川の上流域、運玉森の北麓に立地する。もとは西原村安室・桃原の各一部。明治12年の廃藩置県の前後に、首里の士族が桃原・安室を原野に形成した屋取であった。盆地に立地し、風当たりが弱いため野菜や果樹栽培に適する。

池田ハイツは、1993年（平成5）沖縄県住宅供給公社の宅地、建物分譲事業の展開により形成された。

代表的な姓は、田場、比屋根。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	145	143	288	51
1982年（昭和57）	134	134	268	63
1992年（平成4）	156	135	291	123
2003年（平成15）	360	344	704	255
2013年（平成25）	416	348	764	349
2021年（令和3）	417	305	722	374

行政区の出来事

- 1995年（平成7）1月、池田ハイツの分譲住宅案内。
- 2017年（平成29）2月、コミュニティ助成事業を受け公民館の冷暖房機器等を整備。



池田自治会いいあんべ事業（2003年（平成15））



高速道路と池田ハイツ造成（1994年（平成6））

西原町のやや中央部、中城湾に注ぐ小波津川の中流域に位置する。

明治末期から、メキシコをはじめハワイ・ペルー・ブラジルなどへの移民が見られた。当時の半数以上の世帯が何らかの形で移民と関係していたといわれる。戦前までは小波津郵便局があった。

西原町で初めて農村振興会を組織。

かつては肥沃な小波津ターブックワを擁し稲作が盛んな農村であったため、稲作に関する豊作祈願の年中行事の綱引が行われている。

代表的な姓は、小波津、呉屋、糸数。

	男	女	人口計	世帯数
1972年（昭和47）	384	379	763	159
1982年（昭和57）	1,103	999	2,102	498
1992年（平成4）	441	408	849	228
2003年（平成15）	458	467	925	310
2013年（平成25）	510	509	1,019	357
2021年（令和3）	479	469	948	371

行政区の出来事

- 1985年（昭和60）8月、「亭良佐井戸」改修工事が完了。
- 1995年（平成7）4月、小波津壮年会が親睦駅伝。小波津集落-うるま市宮城島折り返し約73キロ。
- 2005年（平成17）9月、「7年まる村遊び」が30年ぶりに小波津集落センターで開催された。
- 2011年（平成23）10月、地域に伝わる産業や伝統、生活習慣、祭事などの歴史をまとめた字誌「小波津誌」を発刊。
- 2018年（平成30）9月、地域活性化事業を活用し「小波津区獅子舞（子ども獅子）担い手育成事業」として子ども獅子を制作。
- 2020年（令和2）4月、小波津伝統芸能保存会は地域活性化助成事業を活性化し、戦後3代目となる旗頭4基を新調した。



中城公園観光記念（1963年（昭和38））



盆踊り（1965年（昭和40）頃 資料提供 小波津自治会）



旗頭（1993年（平成5） 資料提供 屋良勝彦）



綱引き（1993年（平成5） 資料提供 屋良勝彦）



棒術（1993年（平成5） 資料提供 屋良勝彦）



第4回新春マラソン大会
(1979年(昭和54) 資料提供 小波津自治会)



慰霊祭 (2009年(平成21) 資料提供 小波津自治会)



30年ぶりに開催された小波津村あしび (2005年(平成17) 資料提供 小波津自治会)



戦後3代目となる旗頭を新調 (2020年(令和2) 資料提供 小波津自治会)

【行政区】

小波津団地

沖縄県住宅供給公社により開発された小波津団地は、①静かな自然環境②南斜面で日当たりが良い③那覇市に近い④本部落(小波津)近いなどの条件を着目して選ばれた。1974年(昭和49)1月14日に本格的な造成工事が始まり1975年(昭和50)宅地造成も完成。

1977年(昭和52)9月の行政区改編に伴い小波津から分離。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	524	495	1,019	274
2003年(平成15)	445	458	903	289
2013年(平成25)	415	427	842	326
2021年(令和3)	414	395	809	332

行政区の出来事

- 1991年(平成3)10月、自治省からコミュニティ活動活性化地区指定を受ける。
- 1992年(平成4)1月、コミュニティ活動活性化地区指定事業の一環として、ツツジ700本の植付け作業を行った。
- 1992年(平成4)8月、小波津団地まつりが開かれた。
- 1998年(平成10)2月、自治会の事務所「小波津団地自治会ふれあいセンター」が完成。



小波津団地遠景 (1975年(昭和50))

【行政区】

県営西原団地

1984年(昭和59)1月から県土木建築部が、小波津から翁長にかけて建築を進めていた県営住宅は、翌年2月に鉄筋コンクリート5階建ての6棟が建設され完成した。同年7月1日から入居が始まった。

1985年(昭和60)7月1日に行政区(19区)となった。



小波津団地まつり(2003年(平成15))



小波津団地自治会結成30周年記念 親子ウォーク&バーベキュー(2006年(平成18))

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)	317	319	319	152
2003年(平成15)	277	303	303	160
2013年(平成25)	221	281	281	155
2021年(令和3)	169	251	251	156



舞葵琉太鼓(2000年(平成12) 資料提供 県営西原団地自治会)



「三線」講座(2001年(平成13))

【行政区】

県営幸地高層住宅

1988年(昭和63)から那覇市首里石嶺との境界に建築が進められ、造成され鉄筋コンクリート7階建て1棟、8階建て1棟が建設された。

1995年(平成7)4月1日行政区(31区)となった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)				
2003年(平成15)	202	219	421	148
2013年(平成25)	160	212	372	141
2021年(令和3)	121	176	297	135

行政区の出来事

- 2018年(平成30)2月、コミュニティ助成事業を活用し、会議用イスを購入。



幸地高層住宅10周年まつり(2013年(平成25))

【行政区】

県営坂田高層住宅

1994年(平成6)から幸地集落の北側に建築が進められ、造成され鉄筋コンクリート8階建て1棟(140世帯)が建設された。

1996年(平成8)4月1日行政区(32区)となった。

	男	女	人口計	世帯数
1972年(昭和47)				
1982年(昭和57)				
1992年(平成4)				
2003年(平成15)	236	266	502	142
2013年(平成25)	203	258	461	135
2021年(令和3)	158	202	360	137



市町村合併問題地域説明会(2003年(平成15))

【行政区】

崎原

字掛保久の小字尻原と字内間の小字宇須久美多原に点在する屋取集落。崎原集落はそこに住む崎原一門の姓が地名に転じた珍しいケース。

昭和初期、崎原も他の屋取集落と同様に一行政区として字内間や字掛保久から独立したが、地籍はそのままであった。

戦前、十分な農耕地もなく、農家の次男、三男らは新天地を求めて南洋方面へ多くの自由移民がでた。

戦時中、集落に残っていた住民らは小那覇飛行場の建設などに徴用された。

終戦直後から、米軍は崎原一帯を軍需要物資の集積場などに利用したため、住民らは元の集落には戻れなくなり、他集落での生活を余儀なくされた。戦後できた新部落（現平園）には多くの崎原出身者が住むようになった。

行政区の出来事

- 1984年（昭和59）3月、崎原地区土地改良区内で285年前（発見当時）に造られた石積みの珍しいマチ墓が見つかった。

【行政区】

仲伊保

かつて、集落は中城湾（現南西石油辺り）に面した風光明媚な海岸地に立地していた。地名であるイーフとは海岸地帯を意味する方言のことで、集落の入り江地が堆積作用によって陸地化したところで集落名はその地形、地質に由来する。戦後、米軍による飛行場の拡張工事に伴い、集落付近から大量の土砂を採取したため、かつての集落は池沼と化してしまった。米軍から返還された後も宅地としては使えず、字民らは農業試験場跡地（現、美咲区）や他集落へと分散して住むようになった。

戦前主な年中行事として、ハーリー、エイサーなどがあった。

代表的な姓は、新川、大城。



仲伊保オービー新年会（1966年（昭和41）資料提供 泉川利夫）



仲伊保区民親睦会（1966年（昭和41）資料提供 泉川利夫）

【行政区】

伊保之浜

かつて、集落は、小那覇又下と呼ばれる屋取集落であった。仲伊保集落と同様、中城湾に面した小那覇川の下流域の風光明媚な海岸地に立地していた。戦前までそこは尚家の別荘「浜之御殿」があった。

戦後、集落地域は飛行場跡地として米軍に接収され、新部落（現、平園）や試験場地（現 美咲）などに住むようになった。軍用地返還後も元の集落には戻らず終戦直後から住み続けたところに多く定住している。

戦前主な年中行事として、ハーリーなどがあった。

代表的な姓は、花城、米須。

復帰関連の出来事

通貨切り替え

1947年(昭和22)、B円と日本円(新日銀券)の2種類が法定通貨として流通したが、48年に米軍はB円を唯一の法定通貨とした。当時、1ドル、120B円に対し、日本円は1ドル、360円であった。B円の時代は1958年9月で終わり、ドルに切り替えられた。

1972年(昭和47)5月15日、沖縄の「日本復帰」に伴い、県内ではドルから円への通貨切り替えが5月15日から20日までの6日間で行われた。

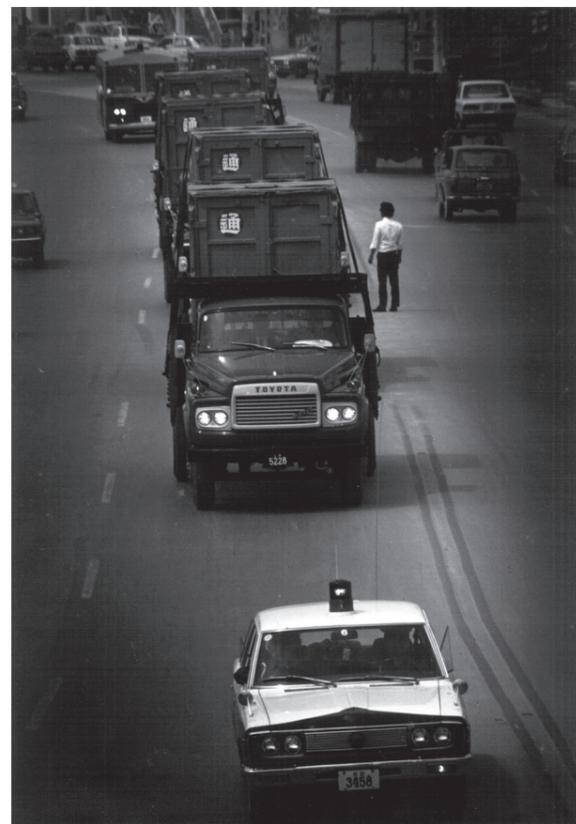
1ドル=360円の固定相場が円の変動相場制への移行で、復帰前には1ドル=305円となっていた。

日本政府は1ドル=360円での交換は困難だとし、1971年(昭和46)10月9日に県民の保有するドルを確認して、復帰時点ではその変換レートで交換し360円との差額分を補償することにした。

1ドル=305円の交換レートは360円を訴え続けた沖縄県民の要求にはほど遠く、基準レートの308円以下でもあった。銀行など公的機関の債務は305円で換算されたが、家賃や地代などは360円で読み替えられて、沖縄の消費者物価がわずか1か月で14.5%も高騰する原因になった。



通貨の個人保有確認作業 ドル差損作業
(1971(昭和46)年10月9日 沖縄県公文書館所蔵)



通貨切り替え用の円(総額540億円)が那覇港から日銀那覇支店まで運ばれる輸送トラックの列
1号線(現在の国道58号線)
(1972年(昭和47)5月2日 資料提供 屋良勝彦)

1945年(昭和20)	沖縄地上戦
1946年(昭和21)4月15日	第一次通貨交換(B円、新日本円等)
1946年(昭和21)9月1日	第二次通貨交換(新日本円)
1947年(昭和22)8月1日	第三次通貨交換(新日本円、B円)
1948年(昭和23)7月16・21日	第四次通貨交換(B円)
1958年(昭和33)9月16日	第五次通貨交換(米ドル)



1\$ / 初代アメリカ合衆国大統領 ジョージ・ワシントン



20\$ / 第7代アメリカ合衆国大統領 アンドリュー・ジャクソン



1\$ / 第3代アメリカ合衆国大統領 トーマス・ジェファソン



50\$ / 第18代アメリカ合衆国大統領 ユリシーズ・S・グラント



5\$ / 第16代アメリカ合衆国大統領 エイブラハム・リンカーン



100\$ / アメリカの政治家・科学者 避雷針発明 ベンジャミン・フランクリン



10\$ / アメリカ合衆国初期外交リーダー アレクサンダー・ハミルトン



ドルコイン
(左から、1セント、5セント、10セント、25セント、50セント 資料提供 崎山宗信)

琉球切手

米軍統治下の沖縄で発行された郵便切手。

1948年（昭和23）7月1日に発行されてから、1972年（昭和47）までに257種類が発行された。

発行目的別にわけると、普通切手、航空切手、記念切手、年賀切手など種類がある。デザイン制作はほとんどが県内在住の画家、デザイナーである。沖縄独自の文化を反映したデザインだけに、琉球切手の人気は高く、外貨獲得にも大きな役割を果たした。

日本復帰を控えた1971年（昭和46）ごろから、やがてなくなる貴重な切手だ、と本土の一部業者があおったことから新規発行される切手を求めて大行列ができるなど社会現象化した。しかし、1973年（昭和48）ごろから大暴落し、損失を抱える者も出た。



この切手は沖縄切手最後のものであり印面にも英語で"Final Issue"と記されている。
（資料提供 真栄城守憲）



この切手は1972年3月15日の返還協定推進を記念して発行された。
（資料提供 真栄城守憲）

復帰関連事業

沖縄の祖国復帰を記念して、「復帰記念植樹祭」1972年（昭和47）11月、「沖縄特別国民体育大会（若夏国体）」1973年（昭和48年）5月、「沖縄国際海洋博覧会」1975年（昭和50）7月～1976年（昭和51）1月の三大事業が開催された。沖縄に対する理解を深めとともに、遅れた沖縄の社会基盤を整備することが主な狙いとされた。

復帰記念植樹祭

緑化思想の普及高揚と国土保全に対する認識をいっそう深め、戦火で荒廃した本島の森林の復旧をはかり、森林資源の培養と緑ゆたかな住みよい郷土づくりを促進する目的で実施された。

1972年（昭和47）11月26日、かつての激戦地糸満市

摩文仁丘に県内外から3,890人を招いて行われた

植樹祭では、琉球松3,600本が植えられ、また、これに関連してピロウ、コバテイシ、ガジュマル、キョウチクトウ等2,500本を会場周辺に植樹し、さらに、シマナンヨウスギの中苗3,700本を市町村に配布した。



植樹をする人々（資料提供 沖縄県公文書館所蔵）

若夏国体

若夏国体は、沖縄復帰記念事業の一環として行われた沖縄特別国民体育大会で、本土復帰の翌年の1973年5月3日から4日間、開催された。

沖縄の若々しい初夏の息吹を表した言葉として「若夏」が用いられた。「強く・明るく・新しく」を大会スローガンに奥武山運動公園をメイン会場に、県下11市町24会場で行われた。

大会は通常の国民体育大会(国体)と違い、全国予選を行わずに各都道府県に種目と人数を割り振って選考したミニ国体で、秋季国体の5分の1の規模だった。そ

のため天皇・皇后杯はなく、都道府県対抗の形式を採用したものの、得点制とはせず順位のみを決める方法で競われた。

沖縄初の全国規模のスポーツ大会には、1県平均60人内外の役員・選手団、総勢3342名が参加し、日本体育協会・文部省・総理府・沖縄県が主催・運営に当たった。県選手団は、重量挙げや弓道(一般男子)、ボクシング(高校)など7種目で優勝するなど健闘した。

若夏国体は、県民のスポーツへの認識を高めるとともに、スポーツ施設の充実させ、競技力を向上させた。



選手団入場(資料提供 沖縄県公文書館所蔵)

海洋博

海洋博は1975(昭和50)年7月19日から6か月間、沖縄本島北部の本部半島で開催された沖縄国際海洋博覧会の略称。

メインテーマは、「海—その望ましい未来」。1972年の基本理念で「平和的な国際協力のもとに、海洋の望ましい未来を求めて、環境の保全と改善にふさわしい開発の方途を見いだすことが必要」とうたわれた。

海を含め100万㎡(陸は75万㎡)の会場に海域、船、魚、科学技術、民族と歴史の施設を配し、36か国、3つの国際機関に政府、県、民間グループが出展した。海をテーマにした展示や催しのほかに、シンポジウムや太平洋横断ヨットレース、世界各国の伝統芸能祭など、多彩なイベントが繰り広げられ、会期中約350万人が訪れた。

海洋博開催に伴い短期間で膨大な公共事業費が投入され、陸上交通網、空港・港湾整備、平和祈念公園などが整備された。特に道路事業が社会に与えた影響は大きく、北部縦貫道路、沖縄自動車道をはじめ、本部半島縦断道路や国道58号の整備・拡張は、中北

部を中心とした交通の基本網を整えた。海洋博関連で海洋博記念沖縄館、海洋博記念公園、海洋博記念公園水族館が造られ、沖縄観光の目玉として現在に至っている。

その一方で、海岸線の景観を大きく変え、自然環境の破壊による海洋汚染などの深刻な環境問題も引き起こした。また土地ブームが巻き起こり、離島にまで広がった本土企業による土地買い占め、物価高などの問題がクローズアップされ、反対運動も起こりはじめた。

海洋博投資は「海洋博ブーム」と称されるにわか景気を引き起こしたが、予想された入場者数は、当初予想の500万人をはるかに下回る350万人に程度にとどまり、海洋博を当て込んで建設された地元の中小ホテルや民宿・土産店などは経営不振におちいった。海洋博開催中からとりわけ終了後にかけて、赤字経営や企業倒産が激増。海洋博後は、卸・小売、建設、製造、サービスなどすべての業種にわたって企業倒産が相次ぎ、物価高と失業という後遺症をもたらした。



赤い屋根瓦の沖縄館(1975年(昭和50) 資料提供 屋良勝彦)



エキスポ75記念硬貨(資料提供 崎山宗信)

交通方法の変更

米軍占領時代から続いていた交通方法（車両の右側通行）への変更は、沖縄の日本復帰にともない1978年（昭和53）7月30日午前6時を期して交通方法が右側交通から左側交通に変わった。

7・30（ナナサンマル）とよばれ、交通方法の変更によって道路標識の変更やバス停留所の変更、バス・タクシー車両の切り換えや施設整備などに約330億円、特別事業費を含めると約400億円もの資金が投入され、県経済にうるおいをもたらした。

県外からの2,800人を含む約4,200人の警察官が交通整理とその指導にあたったが各地で交通事故が続発した。

沖縄県の交通方法の変更は、一国一方式の国際条約（道路交通に関する条約）の遵守、および本土—沖縄間の交流が増加するなかで交通方法の相違による交通上の危険を防止する目的で、復帰処理事業の一つとして実施された。この交通方法の変更は、復帰による制度上の総仕上げでもあった。



国道329号線兼久付近(1978(昭和53)年6月撮影)



730(ななさんまる)マスコット人形
(資料提供 仲宗根春美 真栄城哲)



730標識カバー(資料提供 西原町教育委員会)

復帰50年における町制の歩み

町章 (1968年(昭和43)7月制定)

町章は、昭和43年7月に制定され、町名の頭文字の「西」を図案化し、円は町民の融和団結を、翼は町勢の雄飛発展の姿を表現、輝く西原町の将来を簡明に力強く象徴したもの。



西原町民憲章 (1982年(昭和57)11月1日制定)

わたしたちは、西原町民としての自覚と誇りを持ち、「人間性豊かな文教のまち」をめざし、恵まれた地理的条件を生かし、明るく住みよい平和なまちをつくるため、この憲章を定めます。



- 一、わたしたちは、緑を豊かにし、美しいまちをつくりましょう
- 一、わたしたちは、つねに学び、文化の高いまちをつくりましょう
- 一、わたしたちは、だれにも親切にし、互いに助け合いましょう
- 一、わたしたちは、勤労感謝の心を養い、物を大切にしましょう
- 一、わたしたちは、スポーツに親しみ、健康の増進につとめましょう
- 一、わたしたちは、時間を守り、すすんであいさつをしましょう

町木 ガジマル (1980年(昭和55)3月2日制定)

町木ガジマルは、忍耐・包容・発展を象徴。真夏の灼熱の太陽の下で日陰をつくり涼しさと安らぎを提供してくれる。



町花 ブーゲンビリア (1980年(昭和55)3月2日制定)

町花ブーゲンビリアは、情熱・明るさ・繁栄を象徴。

つる性花で町内では垣根、門アーチ、盆栽等に植えられ、花は一年通して開花し私たちの目を楽しませてくれる。花の色は、白・桃・紫・深紅・オレンジ・赤などの種類あり、南国特有の色鮮やかなすばらしい花である。



町花木 サワフジ (1999年(平成11)2月26日制定)

内間御殿には樹齢450年のサワフジがあり町商工会でもさわふじ名の泡盛などがあるなど、町のシンボルとして町内外で有名です。



西原町歌

(1980年(昭和55)3月10日制定)

作詞 岡本 淳三
作曲 渡久地 政一

- 1 太平洋を 越えてくる
潮のかおりの さわやかさ
デイゴの花の ほほえみに
かがやく空よ 野よ海よ
ああ 西原は わがまちは
永久の幸福 誓うまち
- 2 西原富士を仰ぎ見る
眉に希望の 陽がおどる
働く汗に こたえつつ
豊かに育つ さとうきび
ああ 西原は わがまちは
若い息吹が はずむまち
- 3 人の和かたく 結び合い
めざす理想の まちづくり
歴史にかおる ふるさとに
文教の鐘 鳴りわたる
ああ 西原は わがまちは
栄え果てなく 伸びるまち

西原町音頭

(1980年(昭和55)3月10日制定)

作詞 岡本 淳三
作曲 普久原 恒勇

- 1 潮路はるかに 海原晴れて
空の青さが 目に沁みる
幼なじみの 西原富士は
けさも緑の 裾を引く
※ウネ！西原町 アリ！シンカぬ達
踊り踊ればな 心も丸くなる
- 2 まねく小菊に ほほえむデイゴ
つづく果てない キビ畑
稔りゆたかな 西原平野
汗の笑顔に 陽がひかる
※くりかえし
- 3 内間御殿の あの石垣に
偲ぶ歴史の 夢のあと
花の文化を 育てた土に
若いこだまが 明日を呼ぶ
※くりかえし
- 4 鐘が鳴る鳴る 学園都市に
誓う明るい まちづくり
明日をめざして 希望に燃えて
つなぐ手と手の あたたかさ
※くりかえし

非核反戦平和都市宣言

破壊と殺戮を繰り返す戦争をなくし、世界の平和を実現することは、人類共通の願いである。

しかしながら世界的な規模で激化する核軍備競争によって、人類はかつてない核戦争の脅威にさらされている。こうした事態のもとで、核戦争から人類の滅亡を拒む世界の人類は核廃絶と平和を求めて立ち上がっている。

西原町民は、40年前のあのいまわしい戦争を忘れはしない。わたしたちは、世界唯一の核被爆国民として、また、悲惨な地上戦を体験した唯一の沖縄県民として、全ての戦争を否定し、人類の生存を脅かす核の廃絶を世界の全核保有国に強く求めるものである。西原町民は、平和憲法を守り、この町を永久に反戦平和、非核の町とすることを決意する。

これは、平和を希求するわれらの総意であり人類の生存を確実にするために、われらに課せられた歴史的使命である。

よって西原町民は、平和に生きる権利を真に自らのものにするために、核の廃絶と恒久平和の確立をめざして全力を尽くすことをここに宣言する。



昭和60年12月18日 沖縄県西原町

西原町名誉町民

名誉町民は、西原町の政治、経済、産業、教育及び文化、その他広く社会福祉の向上に卓越した功績があった者に対して西原名誉町民の称号を贈り、その功績をたたえ、町民敬愛の対象として顕彰することを目的とするものです。

■ 平良 幸市

氏名 故 平良 幸市（たいら こういち）
生年月日 明治42年7月23日～昭和57年3月5日（享年73歳）
本籍 沖縄県中頭郡西原町字我謝636番地
功績 西原村長 昭和22年4月30日～昭和25年9月18日（12・13代）
沖縄県知事 昭和51年6月25日～昭和53年11月25日

明治42年、西原村字我謝に生まれ、父親の農業を手伝いながら勉学に励み県立一中を卒業し師範学校へ進学。昭和3年に尋常高等小学校教職につく。昭和19年に国民学校の教頭に昇任し、沖縄戦の終戦を迎える。

戦後昭和21年に沖縄民政府文教局庶務課に勤務し、戦争で荒れ果てた沖縄の教育の振興に力を尽くす。

昭和22年、西原村長に就任。沖縄民政議員（村長兼務）、沖縄群島議員、琉球政府立法院議員、沖縄復帰に伴う特別措置法の規定により沖縄県議会議員となる。

昭和47年7月に沖縄県議会議長となる。その後、昭和51年6月25日、町在住者として初の沖縄県知事就任となる。

県知事として就任のころ海洋博直後で、観光客は半減し産業界の厳しい状況の中、「産業まつり」を初めて開催し産業の育成強化、観光事業の振興に力を注いだ。

また、昭和53年7月30日に本土と同じように車道の左側通行という交通方法の変更を行った。町はもとより沖縄の社会、経済、産業、文化、福祉等の諸問題解決に全身全霊を捧げ、県民生活の向上、地方自治の振興発展に著しい功績があり、郷土のほこりとして今なお敬愛の対象となっている。



故 平良幸市（1973年（昭和48）
撮影 資料提供 屋良勝彦）

■ 呉屋 秀信

氏名 呉屋 秀信（ごや ひでのぶ）
生年月日 昭和3年4月10日
年齢 85歳
住所 那覇市壺川382番地（我謝出身）

昭和3年4月10日生まれ、西原町我謝出身。呉屋加美氏、ツルさんの長男。

戦時下の混乱期において、住民収容所へ連行されるが、戦後西原村我謝区に居住許可が下り帰郷。戦没者が我謝集落だけで住民の55%にあたる約600名に及ぶ戦後の灰燼（かいじん）からの復興は田畑の復旧が喫緊の課題であったところ、農機具を作ることを決意。地域に役立ち人々の要求に応えるために鍛冶屋を企業。従業員3名の鍛冶屋が、19歳のときには従業員21人の鉄工所へ成長。（1947年 金秀グループ創業）

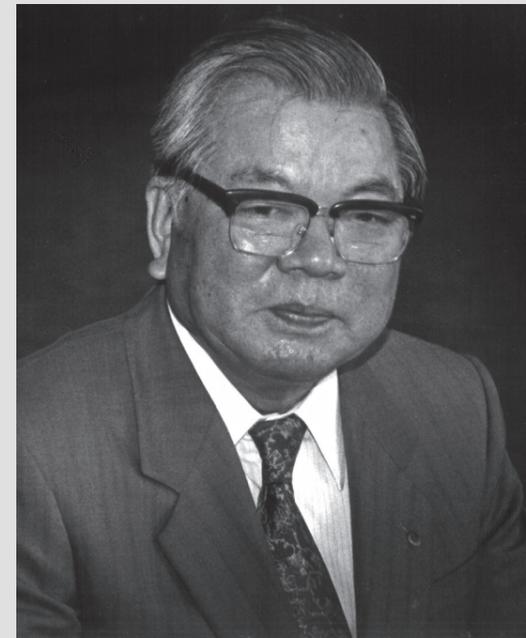
当時、これからは電気が必要になると考え工場内に発電機を備え、我謝地区をはじめ近隣地区へ送電。

1968年に金秀西原工場の完成。（故郷西原に工場敷地が確保できたことの喜びに加え、地元から多くの臨時労務を採用した。）沖縄軽金属の誕生とともに、西原町掛保久に工場用地を取得し操業を開始。1983年には金秀鋼材の西原移転。1987年にかねひで都パレスの開業。1997年には創業50周年記念行事として西原町総合運動公園に記念植樹を実施。

氏は、名実ともに沖縄県経済界の中心となり、町はもとより沖縄県の経済の発展、振興に尽力された。

我謝地区で3名の鍛冶屋から、誠実・努力・奉仕を常に心がけ、4,500名余の従業員を抱える大企業のトップになった際も、グループ創業60周年史の表題「運玉森の麓から」と命名し、西原への愛着心を大事にしている。

補足ではあるが、企業を挙げて西原町への人材育成会への寄付を長年にわたり継続し、個人としても母校、西原中学校への寄付・寄贈を行っている。



呉屋秀信（1994年（平成6）撮影
資料提供 屋良勝彦）

歴代村(町)長就退任

歴代	氏名	在職期間	備考	
村長	初代	新川 崔賀	1908年(明治41) 4. 1 ~ 1914年(大正 3)	
	2代	新川 栄男	1914年(大正 3) ~ 1917年(大正 6)	
	3代	安谷屋 長英	1917年(大正 6) ~ 1920年(大正 9)	
	4代	新川 文吉	1920年(大正 9) ~ 1924年(大正13)	
	5代	宮平 光清	1924年(大正13) ~ 1925年(大正14)	
	6代	宮平 一一	1925年(大正14) 4. 1 ~ 1929年(昭和 4) 4. 2	
	7代	新川 雅清	1929年(昭和 4) 4. 3 ~ 1931年(昭和 6) 1.22	
	管掌	當山 清盛	1931年(昭和 6) 1.22 ~	県属
	8代	宮平 光清	1931年(昭和 6) 2.11 ~ 1935年(昭和10)	
	9代	宮平 光清	1935年(昭和10) ~ 1940年(昭和15) 10.29	
	管掌	當山 清盛	1940年(昭和15) 6.22 ~	振興課県属
	10代	小波津 正光	1941年(昭和16) 3.18 ~ 1945年(昭和20) 3.18	昭20.6沖繩戦で殉職
	11代	玉那覇 良信	1946年(昭和21) 4.16 ~ 1947年(昭和22) 4	
	12代	平良 幸市	1947年(昭和22) 4.30 ~ 1948年(昭和23) 1.31	
	13代	平良 幸市	1948年(昭和23) 2. 1 ~ 1950年(昭和25) 9.18	
	14代	玉那覇 馨	1950年(昭和25) 9.19 ~ 1954年(昭和29) 9.20	
	15代	玉那覇 文雄	1954年(昭和29) 9.21 ~ 1957年(昭和32) 10.11	在職中死亡
	16代	大城 純勝	1957年(昭和32) 12. 1 ~ 1961年(昭和36) 11.27	任期満了
	17代	大城 純勝	1961年(昭和36) 11.28 ~ 1965年(昭和40) 11.27	任期満了
	18代	新川 崔吉	1965年(昭和40) 11.28 ~ 1968年(昭和43) 9. 1	退職
	19代	宮平 吉太郎	1968年(昭和43) 10.14 ~ 1972年(昭和47) 10. 5	任期満了
20代	宮平 吉太郎	1972年(昭和47) 10. 6 ~ 1976年(昭和51) 10. 5	任期満了	
21代	宮平 吉太郎	1976年(昭和51) 10. 6 ~ 1979年(昭和54) 3.31	任期途中に町政施行	
町長	初代	宮平 吉太郎	1979年(昭和54) 4. 1 ~ 1980年(昭和55) 10. 5	任期満了
	2代	宮平 吉太郎	1980年(昭和55) 10. 6 ~ 1983年(昭和58) 10. 5	任期満了
	3代	平安 恒政	1983年(昭和58) 10. 6 ~ 1988年(昭和63) 10. 5	任期満了
	4代	平安 恒政	1988年(昭和63) 10. 6 ~ 1992年(平成 4) 10. 5	任期満了
	5代	平安 恒政	1992年(平成 4) 10. 6 ~ 1996年(平成 8) 10. 5	任期満了
	6代	翁長 正貞	1996年(平成 8) 10. 6 ~ 2000年(平成12) 10. 5	任期満了
	7代	翁長 正貞	2000年(平成12) 10. 6 ~ 2004年(平成16) 10. 5	任期満了
	8代	新垣 正祐	2004年(平成16) 10. 6 ~ 2008年(平成20) 10. 5	任期満了
	9代	上間 明	2008年(平成20) 10. 6 ~ 2012年(平成24) 10. 5	任期満了
	10代	上間 明	2012年(平成24) 10. 6 ~ 2016年(平成28) 10. 5	任期満了
	11代	上間 明	2016年(平成28) 10. 6 ~ 2020年(令和 2) 10. 6	任期満了
	12代	崎原 盛秀	2020年(令和 2) 10. 6 ~ 在任中	任期満了

■ 歴代村長



村長 初代
新川 崔賀



村長 第2代
新川 栄男



村長 第3代
安谷屋 長英



村長 第4代
新川 文吉



村長 第5・8・9代
宮平 光清



村長 第6代
宮平 一一



村長 第7代
新川 雅清



村長 第10代
小波津 正光



村長 第11代
玉那覇 良信



村長 第12・13代
平良 幸市



村長 第14代
玉那覇 馨



村長 第15代
玉那覇 文雄



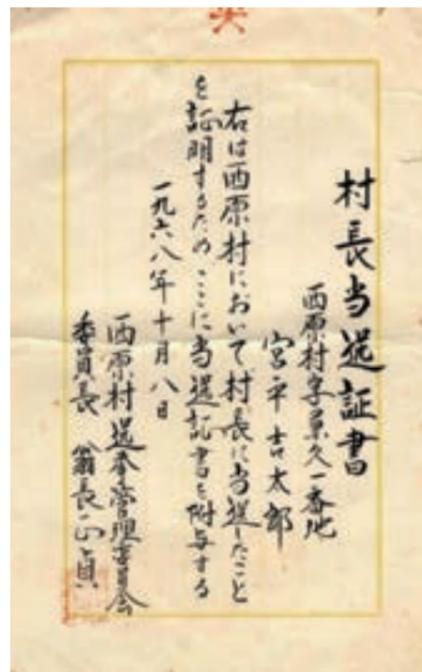
村長 第16・17代
大城 純勝



村長 第18代
新川 崔吉



村長 第19・20・21代
宮平 吉太郎



■ 歴代町長



町長 初・2代
宮平 吉太郎



町長 3・4・5代
平安 恒政



町長 6・7代
翁長 正貞



町長 8代
新垣 正祐



町長 9・10・11代
上間 明



町長 12代
崎原 盛秀

歴代村(町)議長就退任

歴代	氏名	在職期間
初代	小橋川 盛順	1948年(昭和23) 2. 8 ~ 1950年(昭和25) 9.27
2代	屋良 朝智	1950年(昭和25) 10. 3 ~ 1954年(昭和29) 9.27
3代	外間 仁栄	1954年(昭和29) 9.28 ~ 1958年(昭和33) 9.27
4代	親泊 輝武	1958年(昭和33) 9.29 ~ 1962年(昭和37) 9.27
5代	親泊 輝武	1962年(昭和37) 10. 5 ~ 1966年(昭和41) 9.27
6代	与儀 栄	1966年(昭和41) 10. 5 ~ 1970年(昭和45) 9.27
7代	親泊 輝武	1970年(昭和45) 10. 8 ~ 1974年(昭和49) 9.27
8代	親泊 輝武	1974年(昭和49) 9.30 ~ 1978年(昭和53) 9.27
9代	親泊 輝武	1978年(昭和53) 9.28 ~ 1982年(昭和57) 9.27
10代	親泊 輝武	1982年(昭和57) 9.28 ~ 1986年(昭和61) 9.27
11代	親泊 輝武	1986年(昭和61) 9.28 ~ 1990年(平成 2) 9.27
12代	城間 光雄	1990年(平成 2) 9.28 ~ 1994年(平成 6) 9.27
13代	富 春治	1994年(平成 6) 9.28 ~ 1998年(平成10) 9.27
14代	宮平 宗輔	1998年(平成10) 9.28 ~ 2002年(平成14) 9.27
15代	与那嶺 義雄	2002年(平成14) 9.28 ~ 2004年(平成16) 9. 7
16代	前里 光信	2004年(平成16) 9.16 ~ 2006年(平成18) 9.27
17代	城間 信三	2006年(平成18) 9.28 ~ 2010年(平成22) 9.27
18代	儀間 信子	2010年(平成22) 9.30 ~ 2014年(平成26) 9.27
19代	新川 喜男	2014年(平成26) 9.29 ~ 2018年(平成30) 9.27
20代	大城 好弘	2018年(平成30) 9.28 ~ 2022年(令和 4) 9.27
21代	大城 純孝	2022年(令和 4) 9.28 ~ 在任中



初代
小橋川 盛順



第2代
屋良 朝智



第3代
外間 仁栄



第4・5・7~11代
親泊 輝武



第6代
与儀 栄



第12代
城間 光雄



第13代
富 春治



第14代
宮平 宗輔



第15代
与那嶺 義雄



第16代
前里 光信



第17代
城間 信三



第18代
儀間 信子



第19代
新川 喜男



第20代
大城 好弘



第21代
大城 純孝

昔懐かしい写真



沖縄戦の激戦地となり、多くの犠牲と傷を負った西原。

米軍占領下のいわゆる「アメリカ世」における戦後復興。本土復帰を果たし、「うちな一世」の時代に入り、農村地域だった西原は工場や企業の立地や宅地化が進み、発展の道を歩んできました。

復帰後、西原村から西原町へ、昭和・平成から令和へという時代を歩んできた西原を振り返ります。

1950年代



カンカン帽を編む女性(1950年代撮影 資料提供 屋良勝彦)



戦前の小那覇の綱引き(1937年(昭和12) 資料提供 西原町教育委員会)



棚原の風景1(1950-1960年代撮影 資料提供 棚原自治会)



棚原の風景2(1950-1960年代撮影 資料提供 棚原自治会)



小波津青年会新年会(1950年(昭和25) 資料提供 小波津自治会)



獅子シンカ(1950年代(不詳) 資料提供 幸地自治会)



与那原飛行場の垂直写真(1953年(昭和28)7月24日 沖縄県公文書館所蔵)



西原村慰霊塔除幕式(1955年(昭和30) 資料提供 西原町教育委員会)



西原小学校 昭和15年入学生同期会(1956年(昭和31) 資料提供 比嘉昂)



棚原敬老会(1956年(昭和31)撮影 資料提供 棚原自治会)



第3回アジア大会聖火リレー(1958年(昭和33)4月23日 資料提供 平安恒政)



宮里昌栄送別会 西原村青年団同志(1958年(昭和33) 資料提供 比嘉昂)



坂田小学校(1959年(昭和34)撮影 資料提供 屋良勝彦)



坂田小中学校運動会(1959年(昭和34) 資料提供 屋良勝彦)



西原村字棚原青年会 伊波盛徳渡伯記念(1959年(昭和34) 資料提供 比嘉昂)

1960年代



西原村坂田校区青年同志会一同(1960年(昭和35) 資料提供 比嘉昂)



旧西原村役所での消防団(1960年代 資料提供 泉川利夫)



西原村役場封筒(1960年代 資料提供 玉那覇三郎)



エッソスタンダード石油の社宅(現西原ハイツ 1960年代 資料提供 玉那覇三郎)



中部製糖(株)第一工場(1960年代 資料提供 新中糖産業(株))



西原へ高等弁務官資金を交付(1960年(昭和35) 沖縄県公文書館所蔵)

1960年代



中部製糖第一・二工場(1960年代 資料提供 新中糖産業株)



中部製糖第二工場(1960年代 資料提供 新中糖産業株)



せんつる農園を見回る男性(1961年(昭和36)8月 沖縄県公文書館所蔵)



農道整備のため幸地を訪れる高等弁務官(1962年(昭和37) 沖縄県公文書館所蔵)



西原飛行場を視察する高等弁務官(1962年(昭和37) 沖縄県公文書館所蔵)



牛飼い(1961年(昭和36)撮影 資料提供 屋良勝彦)



館外活動車図書館が西原中学校を訪問(1963年(昭和38)6月4日 沖縄県公文書館所蔵)



西原写真館 西原劇場(1963年(昭和38)9月 沖縄県公文書館所蔵)



西原村役所(字与那城)(1963年(昭和38)9月 沖縄県公文書館所蔵)



上翁長地域から運玉森を望む(道路は県道38号線)(1963年(昭和38)9月 沖縄県公文書館所蔵)



字嘉手苅から運玉森を望む(1963年(昭和38)9月 沖縄県公文書館所蔵)



西原村慰霊塔(1963年(昭和38)9月 沖縄県公文書館所蔵)



西原村生活改善グループ連絡協議会(1963年(昭和38) 資料提供 比嘉昂)



兼久婦人会北部観光記念(1964年(昭和39) 資料提供 呉屋寛文)



青年運動会 西原小学校にて(1967年(昭和42)撮影 資料提供 屋良勝彦)



棚原婦人会南部観光(1964年(昭和39) 資料提供 比嘉昂)



宮平太郎夫妻、小橋川栄吉、小橋川正一、新垣カメ再渡航記念(1967年(昭和42) 資料提供 呉屋寛文)



青年運動会 西原小学校にて(1967年(昭和42)撮影 資料提供 屋良勝彦)



平良善栄郷土訪問歓迎会(1969年(昭和44) 資料提供 呉屋寛文)



城間長英氏喜屋武ソル氏郷土訪問記念(1967年(昭和42) 資料提供 桃原自治会)



エッソ石油工場起工式 西原村屋良朝苗行政主席(1969年(昭和44)1月 資料提供 沖縄県公文書館所蔵)



西原のエッソ製油所地鎮祭(1969年(昭和44) 資料提供 沖縄県公文書館所蔵)



中部製糖を訪れる高等弁務官(1969年(昭和44) 沖縄県公文書館所蔵)

1970年代



上原交差点(1970年(昭和45))



兼久同志会(1970年(昭和45)) 資料提供 吳屋寛文



西原村役所(字嘉手苅)(1970年(昭和45)) 沖縄県公文書館所蔵



オキコ製パン西原工場(1971年(昭和46))



沖縄軽金属株式会社(1971年(昭和46))



宮里昌栄氏帰郷歓迎会(1971年(昭和46)) 資料提供 比嘉昂



結婚式の様子(1971年(昭和46)) 撮影 資料提供 屋良勝彦



棚原から運堂の風景(1971年(昭和46)) 撮影 資料提供 屋良勝彦



坂田小学校(1971年(昭和46))



西原村農協本庁舎(1971年(昭和46))



西原村農協与那城出張所(1971年(昭和46))



西原農協坂田出張所(1971年(昭和46))



西原温泉(1971年(昭和46)) 西原温泉は1957年(昭和32)8月、農連西原製糖工場が、工業用冷却水を求めて敷地内にボーリングをし、深さ315メートル掘り続けたところ、冷水ならぬ温かい水が湧き出したのに始まる。



西原郵便局(1971年(昭和46))



西原村に製パン工場を新設(1972年(昭和47)7月) ※現オキコ(株)



西むら蒔蒔株式会社(1971年(昭和46))



西原介輔診療所(1971年(昭和46))



吳屋吉律夫妻郷土訪問歓迎会(1972年(昭和47)) 資料提供 吳屋寛文



屋良朝苗知事 沖縄県議会初の施政方針演説、後方は平良幸一県議会議長(1972年(昭和47)8月2日沖縄県公文書館所蔵)

1970年代



役場窓口業務(1972年(昭和47))



勤住協住宅の造成工事(1973年(昭和48)撮影 資料提供 玉那覇三郎)



第19回西原村体育大会出場記念(1972年(昭和47) 資料提供 小那覇自治会)



沖縄カントリークラブ(1973年(昭和48)頃)



兼久駐在所(1973年(昭和48)頃)



西原村消防団(1973年(昭和48)頃)



役場職員(1973年(昭和48年) 資料提供 呉屋寛文)



小波津集落在、呉屋ストア前三叉路(1974年(昭和49)撮影 資料提供 玉那覇三郎)



坂田から西原平野を望む(1974年(昭和49))



獅子の胴体部分の制作(1975年頃 資料提供 小波津自治会)



桃原・池田線崩壊(1975年(昭和50)撮影 資料提供 玉那覇三郎)



現、西原中学校向いコンビニ横の道路(1975年(昭和50)撮影 資料提供 玉那覇三郎)



冠水した国道329号線(1975年(昭和50)5月 資料提供 新川康之)



西原高校開校・入学式(1975年(昭和50)4月10日 資料提供 西原町教育委員会)



大城助素の碑 小橋川公民館前に移設(1975年(昭和50))



小波津川水系河川整備(1975年(昭和50)~1987年(昭和62) 資料提供 玉那覇三郎)



西原入口から徳佐田、棚原地域を望む(1976年(昭和51))

1970年代



第1回村民運動会(1976年(昭和51))



千原風景(1976年(昭和51)) 資料提供 屋良勝彦



第1回村民運動会(1976年(昭和51))



琉球大学千原敷地造成工事(1976年(昭和51))



西原小学校運動会(1977年撮影 資料提供 新川康之)



沖縄県消防学校(1977年(昭和52))



我謝、兼久青年会ダンスパーティー(1977年(昭和52))12月23日 我謝公民館で開催



学校給食調理の様子(1977年(昭和52))



サトウキビ運搬風景(1977年(昭和52))



宮平村長から米寿者に記念品贈呈(1977年(昭和52))



西原村立坂田保育所(1977年(昭和52))



西原村立西原保育所(1977年(昭和52))



西原村婦人主張大会(1977年(昭和52))



第13回西原村青年駅伝(1977年(昭和52))



陶業の様子(沖縄陶業1977年(昭和52))



造成工事が完了した琉球大学医学部用地(1977年(昭和52))



第1回西原村芸能文化祭(1977年(昭和52))11月3日



第1回西原西原まつりの様子(1978年(昭和53))12月 資料提供 泉川利夫)



西原町中央公民館建設工事(1978年(昭和53))撮影



県道155号線小波津地内 交通変更前(1978年(昭和53)) 資料提供 玉那覇三郎



国道329号線兼久付近(1978年(昭和53))6月撮影



宇桃原の竹の生垣(1978年(昭和53))



西原村学校給食共同調理場(1978年(昭和53))撮影 資料提供 西原町教育委員会)



西原村立西原白百合保育園(1978年(昭和53))



施政方針演説する宮平吉太郎町長(1978年(昭和53))3月15日

1970年代



西原介輔診療所で診察の様子(1978年(昭和53))



小波津区青年会(1978年(昭和53)) 資料提供 小波津自治会



造成中の我謝児童公園(1978年(昭和53))



村役場ホールを改築し議場が完成(新議場で初議会(1978年(昭和53)))



棚原配水タンク(1978年(昭和53))



村職労 労農共闘によるキビ刈作業(1978年(昭和53))



第1回西原まつり(1978年(昭和53))



第1回西原まつり出演の小波津青年会(1978年(昭和53)) 資料提供 小波津自治会



棚原の石畳(1978年(昭和53))



中央公民館及び社会福祉センター用地(1978年(昭和53))撮影



東部消防署西原分遣所(1978年(昭和53))撮影 資料提供 西原町教育委員会



幸地・翁長線道路改良工事(1979年(昭和54))



南国養豚団地生産の様子(1979年(昭和54))



嘉手苅から運玉森を望む(1979年(昭和54))



南国養豚団地(1979年(昭和54))



西原町区長会九州視察団(1979年(昭和54)) 資料提供 呉屋寛文



小那覇海岸でモズク養殖の試験栽培(1979年(昭和54))

1980年代



久しぶりに復活した十五夜あしび(1981年(昭和56) 資料提供 幸地自治会)



西原小学校(1980年頃撮影 創立記念誌抜粋)



東部清掃組合し尿処理場(1980年(昭和55))



西原東小学校への移転パレード(1981年(昭和56)10月)



20年ぶりに復活した幸地酉年十五夜あしび(1981年(昭和56) 資料提供 幸地自治会)



棚原 酉年12年まーるあしび(1981年(昭和56) 資料提供 西原町教育委員会)



酉年12年まーるあしび(1981年(昭和56)撮影 資料提供 屋良勝彦)



棚原酉年12年まーるあしび(1981年(昭和56) 資料提供 屋良勝彦)



棚原酉年12まーるあしび(1981年(昭和56)撮影 資料提供 屋良勝彦)



棚原酉年12まーるあしび(1981年(昭和56) 資料提供 屋良勝彦)



翁長のよんしー 拝み(1981年(昭和56)撮影 資料提供 屋良勝彦)



小橋川三代目獅子頭誕生祝賀会(1981年(昭和56))



西原高校・坂田小学校空撮(1982年(昭和57)5月撮影 資料提供 屋良勝彦)



旧役場塚発掘調査(1985年(昭和60) 資料提供 西原町教育委員会)



内間集落南側の梯栝(1985年(昭和60)撮影 資料提供 屋良勝彦)



ひとり暮らし老人世帯への非常ベル設置(1984年(昭和59)撮影 西原町社協30年のあゆみ抜粋)



旧盆ワークイ(1985年(昭和60) 資料提供 屋良勝彦)



森川の旧軍隊塚(1985年(昭和60) 資料提供 西原町教育委員会)



5月ウマチー内間ノ口祭祀(1986年(昭和61) 資料提供 西原町教育委員会)



ハワイ州知事ワイヘ氏就任祝賀会(1987年(昭和62)撮影 資料提供 屋良勝彦)



内間で発見された古墓(1988年(昭和63)撮影 資料提供 屋良勝彦)



海邦国体開会式(1987年(昭和62)撮影 資料提供 屋良勝彦)



我謝綱引き(1988年(昭和63) 資料提供 屋良勝彦)

1980年代



広島へ平和交流団派遣(1989年(平成元)8月)



兼久船揚げ場(1989年(平成元)撮影)



西原町青少年ふれあいの旅(1989年(平成元))

1990年代



西原町国際親善の集い(1990年(平成2)撮影 資料提供 屋良勝彦)



西原町国際親善の集い(1990年(平成2)撮影 資料提供 屋良勝彦)



西原町国際親善の集い(1990年(平成2)撮影 資料提供 屋良勝彦)



東部海浜開発室を設置(1990年(平成2))



坂田にあったスーパーマーケット(1990年代)



小那覇にあったスーパーマーケット(1990年代)



花ぬかじまや(1991年(平成3)撮影 資料提供 屋良勝彦)



伊保の海岸(1991年(平成3) 資料提供 屋良勝彦)



字池田で見えられた不発弾(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



西原町ふれあいバス運行(1992年(平成4)4月)



幸地区十五夜あしびの観衆(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



第三回西原町平和駅伝開催(1993年(平成5)6月)



小波津の棒術(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)



棚原西年12年まーあしび(1993年(平成5) 資料提供 屋良勝彦)

1990年代



本土復帰20周年事業平和モニュメント「命どろ宝」
建立(1993年(平成5))



南西石油に寄港する大型タンカー(1993年(平成5))
資料提供 屋良勝彦



旧役場のほうおう木(1994年(平成6))撮影 資料提供
屋良勝彦



西原町商工会新春の集い(1994年(平成6))撮影 資料提供 屋良勝彦



小那覇工業専用地域(1994年(平成6))撮影 資料提供 屋良勝彦



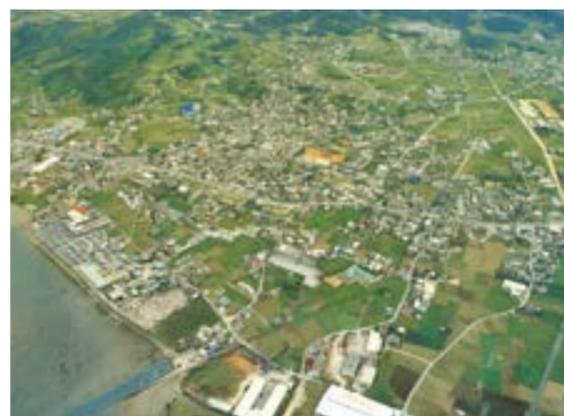
上原棚原土地区画整理事業(1994年(平成6)) 資料提供 屋良勝彦



西原町平和コンサート(平和の願いを音楽にのせて)(1994年(平成6))6月23日



第38回県中学新人ソフトテニス大会で西原東中女子初優勝(1994年(平成6))2月



空撮(平園、兼久、美咲、我謝)(1994年(平成6))



中部製糖(1994年(平成6))撮影 資料提供 屋良勝彦



清明(1994年撮影 資料提供 屋良勝彦)



上原棚原土地区画整理事業(1994年(平成6))



西原入口付近からみた字徳佐田、琉球大学医学部
付属病院(1994年(平成6))撮影 資料提供 屋良勝彦



リフト付ワゴン車両業の開始(1995年(平成7))撮影
西原町社協30年のあゆみ抜粋



第2回世界のニシハランチュの集い(1995年(平成7))11月14日撮影 資料提供 屋良勝彦



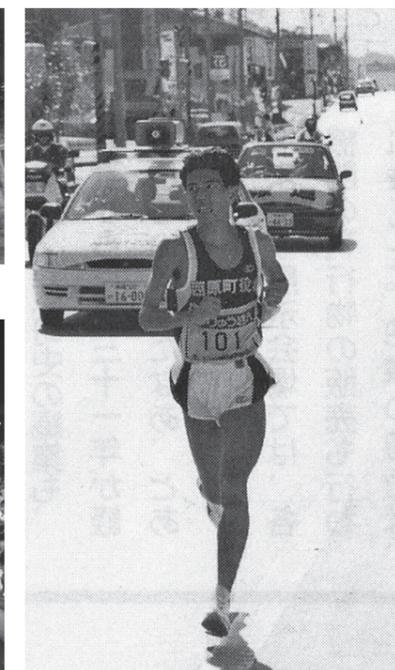
終戦50周年西原町戦没者追悼式(1995年(平成7)) 資料提供 屋良勝彦



沖繩戦終戦50周年西原町戦没者追悼式(1995年(平成7年)) 資料提供 屋良勝彦



終戦50周年西原町戦没者追悼式(1995年(平成7))
10月27日 資料提供 屋良勝彦

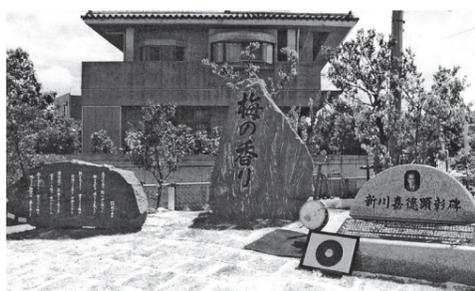


NAHAマラソン初優勝の谷久保達弥さん(1998年(平成10))



第10回西原まつり 桃原の獅子(1995年(平成7年)) 資料提供 屋良勝彦

2000年代



「梅の香り」歌碑が除幕(2001年(平成13)4月)



いいあんぱー屋開所(2002年(平成14)撮影 西原町社協30年のあゆみ抜粋)



町民による市町村合併研究会が発足(2002年(平成14)9月)



坂田保育所・坂田児童館が完成(2002年(平成14)3月)



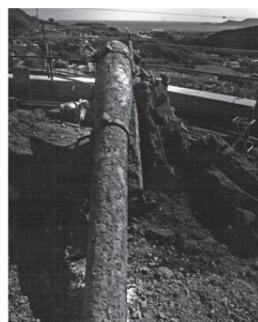
県内自治体初のパークゴルフ場完成(2003年(平成15)4月)



43年ぶりに新調された桃原の「神獅子」(2003年(平成15)8月)



下水処理場(2003年(平成15))



96式15榴弾砲(2004年(平成16)資料提供 屋良勝彦)



西原運動公園全面供用開始およびテニスコート開園式(2004年(平成16))



イルミネーション点灯式(2004年(平成16))



坂田交差点商店街(2003年(平成15))



第3回西原さわふじエイサー祭り(2004年(平成16))



第15回西原まつり 婦人会(2005年(平成17))



小波津7年まーる村あしび(2005年(平成17))



第15回西原まつりパレード(2005年(平成17))



棚原 西原12年まーるあしび(2005年(平成17) 資料提供 西原町教育委員会)



第26回西原町陸上競技大会50代100m競争(2005年(平成17))



県道29号線拡幅工事(2005年(平成17))



第26回西原町陸上競技大会800メートルリレー(2005年(平成17))



沖縄キリスト教短期大学保育課の学生が西原東幼稚園の壁画を制作(2005年(平成17)8月)



第13回小学生バドミントン大会「男子ダブルス4年生以下で全国制覇(具志堅興祐、上原仁維斗)(2005年(平成17)1月)



平成18年度行政懇談会を開催(2006年(平成18)7月)

2000年代



いげな尚円まつりに出演 西原町文化協会(2006年(平成18))



東崎マリンタウン航空写真(2006(平成18))



第16回西原まつりオープニング(2007年(平成19))



第14回全国中学校なぎなた大会で呉屋亜里沙、米須陽香組が全国V(2006年(平成18)7月)



うたの日コンサート(2008年(平成20))



南石石油防災訓練(2007年(平成19))



男の料理教室(2008年(平成20))



沖縄総合事務局を訪れ国道329号バイパス整備事業の凍結解除の要請文を読み上げる城間議長(2009年(平成21)4月)



ペルー西原町人会90周年記念(2009年(平成21))



畜産共進会(2008年(平成20))



第8回さわふじ青年エイサーまつり(2009年(平成21))



平和の語りべ事業(2009年(平成21))

2010年代



西原町立図書館入館者100万人達成(2010年(平成22))



九州大会バスケットボール春季選手権大会(2010年(平成22))



断続的な大雨で愛泉園の駐車場が崩落(2010年(平成22)8月)



東日本大震災義援金活動 東部消防野球部(2011年(平成23)5月)



内間御殿が国指定史跡となる(2011年(平成23)2月7日)



ハワイアンフラ第1回発表会(2011(平成23))



西原町老人クラブ創立40周年記念式典(2012年(平成24))



第18回西原まつり(2011年(平成23))



原動機付自転車オリジナルナンバープレートが決定(2013年(平成25))



新春書初め大会(2013年(平成25)1月)

2010年代



東部消防出初式2013(平成25)



西原やさい市場オープン(2013(平成25))



西原町青少年健全育成街頭パレード(2013(平成25))



新議場完成を祝い 議員と職員有志による演奏(2014年(平成26)6月)



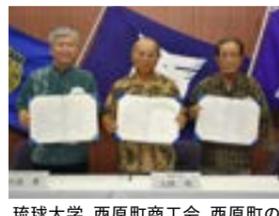
MICE施設誘致決議文を読み上げる上間町長(2014年(平成26))



新しくなった陸上競技場で熱戦(2014年(平成26)9月)



我謝十五夜あしび(2014年(平成26))



琉球大学、西原町商会、西原町の3団体で包括連携協定を締結(2014年(平成26))



西原小学校が創立130周年・西原幼稚園が65周年!(2014年(平成26)12月)



旧西原町役場庁舎閉庁(2014(平成26))



新役場庁舎工事着工(2014年(平成26))



新庁舎内覧(2014年(平成26) 資料提供 屋良勝彦)



西原と福島の子供たちが富士山登山(2014年(平成26)8月)



西原町成人式(2015年(平成27))



しまくとぅば事業(2015年(平成27))



琉歌碑めぐり(2015(平成27))



第6回世界のニシハランチュの集い(2016年(平成28))



アルゼンチン西原町人会創立60周年記念式典(2016年(平成28))



平和学習戦跡めぐり(白梅之塔)(2016年(平成28))



ソデイカ拠点産地認定(2017年(平成29)1月)



ニシハラミュージックフェスティバル(2017年(平成29))



第8回西原町の産業まつり(2017年(平成29))

2010年代



町制施行40周年記念第22回西原まつり
(2019年(令和元)10月)



新庁舎からの小波津地域遠景(2017年(平成29))



「西原さわふじマルシェ」農水産物直売所や観光・文化を配信する複合施設がオープン(2020年(令和2)12月12日)



第74回国民体育大会でビーチバレー西原高校の池城浩太郎さん仲村英治さんが優勝(2019年(令和元)9月)



坂田小学校の児童会が西原の塔へ献花(2020年(令和2)6月22日)



坂田小で生まれた子やぎ「琥珀(こはく)」と命名(2021年(令和3)10月)



令和3年度平和事業「平和資料展」を開催(2021年(令和3)11月)



コロナワクチン集団接種シミュレーション(2021年(令和3))



沖縄都市モノレール線てだこ浦駅周辺(2021年(令和3))

謝 辞

2022年(令和4年)は、沖縄がアメリカの占領下から日本に復帰した1972年(昭和47年)から50年の節目を迎えた年です。

本土復帰の時点で西原村だった本町は、新たな産業振興や那覇市のベッドタウン化などにより急速に人口増加が進み、町制へと移行し、今日に至ります。本土復帰50年を迎え、若い世代を含めた多くの町民の中で、復帰前から現在までの文化や地域の変遷の記憶が失われつつある中、その記憶をアーカイブ化し次代の町民へ伝え続けていくため、「西原町復帰50周年記念事業」を実施しました。

本事業では、町民や町出身者、町内企業等より多大なご協力をいただき、復帰前後からの西原の記録資料(写真等)を収集して2022年(令和4年)5月に写真展を開催、翌年3月にはこの写真集を製作、発刊しました。

本書を通して、西原の発展の歩みや歴史を振り返り、今後の西原を創造していく糧となれば幸いです。

最後に、本書を発刊するにあたって、協力して下さった下記の方々や各種団体に深く感謝申し上げます。

「西原町復帰50周年記念事業」及び写真集 資料提供・協力者一覧

(敬称略)

■個人(五十音順)

新垣 和則	大仲 絵真	崎山 宗信	西垣 友子	與那嶺 善信
新垣 全哲	喜屋武 政男	新里 忍	比嘉 昂	屋良 勝彦
新川 隆之	呉屋 清子	玉城 智子	平安 恒政	
新川 康之	呉屋 弘子	玉那覇 三郎	外間 ヨシ子	
泉川 利夫	呉屋 寛文	玉那覇 達彦	真栄城 守憲	
泉川 マサ子	呉屋 美香	仲宗根 春美	真栄城 哲	

■各種団体

幸地	翁長	県営内間団地	美咲	小波津団地
幸地ハイソ	坂田	掛保久	我謝	県営西原団地
棚原	呉屋	嘉手苺	西原ハイソ	県営幸地高層住宅
徳佐田	津花波	小那覇	安室	県営坂田高層住宅
森川	西原台団地	平園	桃原	
千原	小橋川	兼久	池田	
上原	内間	与那城	小波津	

南西石油株式会社	西原町文化協会	西原町教育委員会
新中糖産業株式会社	西原町議会	沖縄県公文書館
金秀グループ	西原町スポーツ協会	
オキコ株式会社	西原町行政区自治会長会	

西原町復帰50周年記念事業

西原町復帰50年の歩み

【発行日】 2023年(令和5年)3月22日

【編集・発行】 西原町役場総務部企画財政課
沖縄県西原町字与那城140番地の1
TEL.(098)945-4533

【印刷】 光文堂コミュニケーションズ株式会社
沖縄県南風原町字兼城577番地
TEL.(098)889-1131